

① 設置の趣旨及び必要性

1. 現代教養学部学科再編の経緯と目標

東京女子大学は女子への高等教育を授けることを目標とし、初代学長に新渡戸稲造を迎えて大正7(1918)年に創立された。以来100年近く、時代の変遷の中で求められる社会的な要請を見据えながらも、創立以来一貫して、キリスト教精神に基づくリベラル・アーツ教育を行ってきた。昭和23(1948)年に新制大学として発足し、平成21(2009)年には、それまであった文理学部と現代文化学部の二つの学部を統合して、リベラル・アーツ教育の有機的結びつきを深め充実を図り、「専門性をもつ教養人」の育成を全学的な共通目標とするために、4学科(人文学科、国際社会学科、人間科学科、数理科学科)からなる現代教養学部を設立し、全学1学部体制とした。専門的な教育を柱にしながらも学際的な視野をあわせもつ姿勢こそが現代に要請される教養＝リベラル・アーツであるとの確信にもとづくものである。

平成30(2018)年に本学創立100周年を迎えるにあたり、現代教養学部の現行の学科構成を見直し、未来を見据えた形で再編し、リベラル・アーツ教育の一層の充実と発展を目指すことにした。この基本理念は、平成26(2014)年に制定した「東京女子大学グランドビジョン」(資料1)の中で示され、「大学として育成する人物像」(資料1)とともに本学の大学改革の指針となっている。そこではとくに、国際的な視野、女性としてのリーダーシップの育成、社会のステークホルダーとのつながり、そして一人ひとりの学生の自己確立とキャリア構築など、これからの女性に求められる資質の育成を本学の目指す基本方針として掲げている。そしてそれらが目指すところは、単に人材を輩出するだけでなく、人物を育てることにある。

■大学として育成する人物像 (各項目の細項目については資料1参照)

1. 知力(知識)を行動力にするリーディングウーマン
2. 国際的な視野をもった地球市民としての女性
3. 専門性と幅広い教養をもった女性
4. キャリアをカスタマイズする女性
5. 21世紀の高度情報化社会に対応できる女性

初代学長新渡戸稲造は、本学の教育を、高度の知識を教授するとともに、「基督教の精神に基づいて、個性を重んじ、知識よりも見識、学問よりも人格を尊び、人材よりも人物の養成」を目指すと言き、キリスト教の精神に基づき独立した人格を養成することを重視した。本学は、時代とともに社会の求める知識の変化に対応しながらも、一貫して上述の建学の精神、教育理念を継承し、本学独自のリベラル・アーツ教育を行ってきた。この大学の教育理念・目的を受けて、本学は高い専門性と幅広い教養を備えた女性を輩出し、長年社会に貢献してきた。今回の学科再編では、これまで積み重ねてきた本学のリベラル・アーツ教育の実績に、社会との接点を自覚したグローバルで実践的な学びを加えることとした。それによって、高度情報化、グローバル化による国際交流が活

発である今日において、自ら学ぶ力を身につけた学生を、自分自身のキャリアを構築できるような女性として世に送り出すことを目指している。これは、今まで行ってきたリベラル・アーツ教育の方向を転換することではなく、むしろ充実させるものである。これまでのほぼ 100 年の本学の歩みは、キリスト教主義にもとづきながら教養教育により人物を育て上げるという基本理念を維持しつつ、その内容を常に時代を見据えて更新し続けてきたことにある。この姿勢はこれまでと同様、これからも変わるものではない。今回の学部再編で心掛けていることは、未来を見据えた原点回帰である。本学の原点がすでに現在と未来を見据えたものだからである。

以上の目標に向けて、実践的な学びを取り入れたリベラル・アーツ教育の核となる専門教育を担う学科として、現代教養学部を国際英語学科、人文学科、国際社会学科、心理・コミュニケーション学科、数理科学科の 5 学科の構成とし、全学共通カリキュラムもそれに応じて見直して、両者が有機的に結びつくことで、本学が目指すリベラル・アーツ教育を発展させていきたい。

とりわけ、新設の心理・コミュニケーション学科においては、多様化し、複雑化し、国際化した現代社会に生きる人間を、人の心理と、人を結びつける対人関係や社会情報システムの統合的な視点から理解し、人と社会を結びつける本学のリベラル・アーツ教育の新しい姿を提示するものとする。

2. 現代教養学部学科再編の理由と必要性

本学は、教養教育の重要性を人格形成の要として一貫して位置づけてきたが、我が国の高等教育において、教養教育の位置づけは、時代によって多く変動してきた。時には軽視される風潮もあったが、近年においてはむしろ、専門教育に劣らぬような高い位置づけが各方面から指摘され、産業界からも教養教育の必要性が唱えられている。それは、特定の知識、技能、資格の獲得だけではなく、人間性の総合的な陶冶が高等教育の場、とくに学士課程においては強く求められているということにほかならない。

本学が進めるリベラル・アーツ教育は、単に広く学ぶことを目指しているのではない。これまでにも、「専門性をもつ教養人」の育成に向けて、専門教育を学びの核に据えた形で教養教育を位置づけ、それを通して人格の形成を目指すところに本学のリベラル・アーツ教育の目標を置いてきた。つまり、一方においては全学共通カリキュラムとして、学びの広がりや深みを目指すリベラル・スタディーズと学びの仕方を支えるアカデミック・スキル科目をおき、他方において教養教育の核となるべき専門教育を学科科目として設定し、この両者によって「専門性をもつ教養人」を育成する本学のリベラル・アーツ教育を構成してきた。

今回の学科再編にあたっては、こうした理念をさらに時代にふさわしい形で練り直した。とりわけ重視したのは、社会との接点を自覚してグローバルで実践的な学びを取り入れるということである。それは、一人の人間一人の女性として、周囲とのかかわりなくして現代を生き抜くことはできないからである。自分自身の身近なところから国際的な場面に至るまで、一人ひとりの生き方が常に問われるような状況にある。リベラル・アーツ教育は、そのような時代にあって、自分自身の生き方をしっかりと見つめ直し、

一人の人間一人の女性として歩む姿勢を身につけることを目指している。実践的な学びの意義はここにある。

実践的な学びの具体的な方向は、内容の面と方法の面とから取り組むことになる。内容においては、これまでの専門教育は主として学問の分類に沿った構成をとってきたが、この基本線は維持しつつ、新たに社会との接点を重視し実践的な課題を前面に出すような教育課程を編成し、国際英語学科と心理・コミュニケーション学科を新設することにした。それ以外の学科や全学共通カリキュラムにおいても、教育内容に実践的課題を取り込むために、主に教育方法の点について工夫を施した。アクティブ・ラーニングの手法を積極的に活用することにしたのも、こうした趣旨による。参加型の授業によって学生が自ら「学ぶことを学ぶ」ようになり、それを通じて、リーダーシップを育成することを目指している。

東京女子大学は、教育理念・目的を現代社会に活かし、21世紀の地球を生きる自立した女性を育てる女子大学としての使命を果たしてゆく。

3. 養成する人物像とディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

以上は、本学が共通に目指す人物像であり、全学共通教育カリキュラムと各学科における専門科目を統合した広義のリベラル・アーツ教育の理念のもとに、その実現を目指す。

これを基礎に、今回、学部改組・新学科設置とあわせ、本学は、従来のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)を見直し、以下の通り定めた。これにもとづき、カリキュラム・ポリシーとアドミッション・ポリシーも見直し、3つのポリシーは体系的・有機的に連動するものとなっている。

■ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

東京女子大学は、建学の精神であるキリスト教精神に基づくリベラル・アーツ教育により、「専門性をもつ教養人」として人類・社会の問題解決に貢献し得る女性を育てるために、以下の資質・能力を身につけ、かつ、学則に定める所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、学位(学士)を授与します。

1. 人間・社会・自然に対する理解を深め、広範で多様な知識を身につけている。
2. 自分の専攻分野に関する方法論と専門知識を身につけ、さらに自分の専攻分野に隣接する分野について基本的な内容を理解している。
3. 知識を活用し、論理的思考力に基づいて、問題を発見し、解決する能力を身につけている。
4. 他者の表現を適切に理解し、自らの考えを論理的に表現し、建設的な議論を行うことができるコミュニケーション能力を身につけている。
5. 異なる考えや意見を受け入れる力を身につけ、多文化共生社会への理解を深め、他者を尊重し協働できる力を身につけている。
6. 主体的に学び続け、自己を確立し、自らのキャリアを構築する姿勢を身につけている。

4. 心理・コミュニケーション学科の設置の趣旨及び必要性

心理・コミュニケーション学科は、グランドビジョンの第2項「グローバル化・高度情報化した21世紀の社会を切り拓き、国際社会で活躍する女性を育てる」及び「大学として育成する人物像」の第1項「知力（知識）を行動力にするリーディングウーマン」（多文化共生社会への理解を深め、異なる考えや意見を受け入れる力を持つ女性）を育成すること、および第5項「21世紀の高度情報化社会に対応できる女性」の育成を実現するために、現代教養学部の新設する。

心理・コミュニケーション学科は、心理学、コミュニケーションの分野を横断的に学ぶことを通して、分析能力、問題解決能力を養い、人間・社会・世界を科学的に探求し、現代に生きる人間のあり方を考究・提言できる人物の育成を目的とする。

本学科において学生に修得させる主な資質・能力は、以下の通りである。

- (1) 人間の心理、コミュニケーションを科学的に捉える体系的学習によって、多様化する社会の諸問題を複眼的に理解する力を身につける。
- (2) 多様化する社会の発展に貢献し得る、人間の心理、コミュニケーションに関する高度な知識を身につける。
- (3) 心理学、コミュニケーションの横断的な学習を通して、人間社会の多様な問題に対する分析能力、課題解決能力を身につける。
- (4) 心理学、コミュニケーションに関する自らの考えや研究成果をわかりやすく伝える論理的思考力と表現力を身につける。
- (5) 人間・社会・世界について、人や社会・文化の多様性を尊重し、諸問題を科学的に探求する態度を身につける。
- (6) 人間理解に立脚した社会貢献を果たす意欲と行動力を身につける。

具体的には、多様化、複雑化する現代社会の中にあって、人間の心理やコミュニケーションに関する高度な知識と実証研究の技法を基礎として、人や社会・文化の多様性を尊重し、人間のあり方を科学的に探究する力を活かし、常に先端の知識や技術を取り入れながら生涯にわたって学び、社会の発展に貢献しようとする主体性を持った女性の育成を目指すものである。

5. 中心的な学問分野

本学の基本的な教育理念はリベラル・アーツであり、それを構成する各分野において、学問の最新の探求と研究方法の錬磨は常になされていなければならない。そのため、人文科学、社会科学、自然科学の各領域において基本的となる諸分野については、体系的でかつ先端的な研究は継続的に進められ、教育の場に還元される。そのため、現代教養学部の5学科にさらに専攻を設置し、そこに学問分野に応じた教育・研究体制をつくる。これにより、全体としてのリベラル・アーツ教育を構成する。

心理・コミュニケーション学科は、心理学専攻とコミュニケーション専攻の2専攻からなり、それぞれの主たる研究分野をもっている。心理学専攻においては、基礎心理学、発達心理学、臨床心理学、社会心理学の各分野を基本としている。コミュニケーション専攻

においては、メディアコミュニケーション、情報デザイン、多文化コミュニケーションを主要な分野とした学際的な領域となっている。

② 学部・学科等の特色

中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」（平成 17 年 1 月 28 日）の提言する「高等教育の多様な機能と個性特色の明確化」においては、高等教育機関の役割・機能として、

(1) 世界的研究・教育拠点、(2) 高度専門職業人養成、(3) 幅広い職業人養成、(4) 総合的教養教育、(5) 特定の専門的分野（芸術、体育等）の教育・研究、(6) 地域の生涯学習機会の拠点、(7) 社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）の 7 つを挙げ、各大学は自らの選択により、緩やかに機能別に分化し、個性特色を明確化すべきとする方針が提示されている。

東京女子大学はリベラル・アーツ教育を基本方針としつつ、その内実を支える核として専門教育を位置づけて、「専門性をもつ教養人」の養成を教育目標とする。さらに、今回の学科再編を通して、社会との接点を自覚した実践的な学びを取り入れることにより、卒業後のキャリアを自覚的に構築できるようになることを目指している。

また、本学が現代教養学部の 1 学部体制をとり、しかも全学科が同一キャンパス内にあるということは、専門教育が分断されることなく互いに関連し合うことを可能にしている。この利点を生かし、他分野、他領域への関心が自分の専門領域と共鳴するような場として大学・学部全体を位置付け、リベラル・アーツ教育を支える知的環境とする。

この環境の中で、心理・コミュニケーション学科は、心理学専攻とコミュニケーション専攻の 2 専攻を置き、人間のあり方を実証的・科学的に探究することを通し、以下の専門領域に沿った教育を押し進めることになる。

専攻	柱となる領域	教育目標
心理学専攻	基礎心理学、発達心理学、臨床心理学、社会心理学	心理学の 4 つの分野をバランスよく学び、体系的な知識を学ぶ。実験、観察、調査、面接などによる心理学の実証的方法・実践的方法を身につける。現代社会に生きる人間の心の諸問題を解決する力を養う。
コミュニケーション専攻	メディアコミュニケーション、情報デザイン、多文化コミュニケーション	人と社会をつなぐコミュニケーションの諸問題を多角的に学び、刻々と変化するメディア社会、高度情報社会、多文化共生社会で生きるための知識を身につける。社会調査、データ分析の方法や ICT とデザイン思考を学ぶ。加えて主体的な学びを通して、批判力、発想力、分析力、論理的な思考力、表現力を高め、総合的「コミュニケーション力」を養成する。

本学科の教育研究上の目的は、①設置の趣旨及び必要性で前述の通り、人間の心理やコ

コミュニケーションに関する高度な知識、社会・文化の多様性を尊重し実証的・科学的に探究する力、人間理解に立脚した社会貢献を果たす意欲と行動力を学生に身につけさせることである。

本学科は、上記答申に挙げられている機能のうち、特に（3）幅広い職業人養成、（4）総合的教養教育、（7）社会貢献機能 の3つの機能を特色とするものである。

今回の学科再編によって目指したのは、心理・コミュニケーション学科を含むすべての学科が大学全体としてのリベラル・アーツ教育を担うという役割を自覚し、それを組織、制度、カリキュラムの全般において実現することである。また、学科間の壁を低くして多くの他分野、他領域への関心を培い、学びの幅を広げることに資する。とりわけ重要なのは、実践的な学びを取り入れる教育を内容においても方法においても積極的に取り入れることである。この方向性は、全学共通カリキュラムの場においても共有され、共通教育、専門教育の両者が有機的に結びついたリベラル・アーツを実現しようとするものである。心理・コミュニケーション学科がこのような全学的な課題を担う一翼として専門教育を進めることで、全学的な課題であるリベラル・アーツの教育そのもののより強固で効果的な結びつきが実現される。

③ 学部・学科等の名称及び学位の名称

学部の名称 現代教養学部 School of Arts and Sciences

学科の名称 心理・コミュニケーション学科

Division of Psychology and Communication

学位の名称 学士（教養） Bachelor of Arts and Sciences

心理・コミュニケーション学科は、心理学、コミュニケーションの分野を横断的に学ぶことを通して、分析能力、問題解決能力を養い、人間・社会・世界を科学的に探求し、現代に生きる人間のあり方を考究・提言できる人物の育成を目的とする。人間の心理とコミュニケーションを実証的、科学的に探求することを通して、人間のあり方を深く考えることを目標とする本学科においては、学科の教育内容を端的に表すものとして、心理学とコミュニケーションを前面に出した学科名とした。

本学科は、リベラル・アーツ教育により「専門性をもつ教養人」の育成を目的とする現代教養学部を設置するものであり、その教育課程及び教育研究分野を踏まえ、「学士（教養）」が適切であると考えられる。

④ 教育課程の編成の考え方及び特色

1. 教育課程の編成の考え方

本学は、キリスト教精神を基盤としたリベラル・アーツ教育により、「専門性をもつ

教養人」として人類・社会の問題解決に貢献し得る女性の育成を教育目標としている。これを達成し、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を修得させるために、次の通り、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を定め、これに基づき順次性・体系性のある教育課程を編成している。また、各科目群の教育目標、各授業科目の到達目標・概要及びコースナンバリングを定めている。

■カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

東京女子大学は、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に掲げる資質・能力を修得させるために、以下の方針に基づいて、全学共通カリキュラムと学科科目を2つの柱とするリベラル・アーツ教育を行います。

【教育課程の編成】

1. 広範で多様な基礎的知識と基本的な学習能力の獲得のために、「リベラル・スタディーズ」と「アカデミック・スキル科目」の2つの科目群からなる全学共通カリキュラムを編成する。
2. 専門的な方法論と知識を学ぶために、学科科目を体系的かつ順次的に編成する。
3. 授業科目の到達目標・内容に応じた多様な形態の授業科目（講義科目、演習科目、実習科目）を配置する。

【教育内容・方法】

4. 実践的な議論を通じて、知識の活用能力、論理的思考力、問題発見・解決能力、コミュニケーション能力、他者を尊重し協働できる力を養うために、全学年を対象に、参加型の少人数教育を行う。
5. 本学における学修の基盤となる基礎学力及び学習方法を習得し、主体的な学びの姿勢を養うために、アクティブ・ラーニングによる初年次教育を行う。
6. 女性の自己確立とキャリア探求の基礎をつくるために、女性学・ジェンダー的視点に立つ教育を行う。
7. 自分の専攻分野以外の学問領域への関心を広げ、学際的視点を養う全学共通の教育プログラムとして、日本語教員養成課程、キャリア・イングリッシュ課程、副専攻を設置する。
8. 教育成果の段階的な測定とそれに基づく適切な学習指導を行うため、4年次学生を、卒業研究を行うことが可能な者と位置づけ、全学科で3年次から4年次への進級条件を設ける。

【学修成果の評価】

9. 学士課程の集大成としての卒業研究（卒業論文、Final Presentation、講究）を全学科必修とし、目標とする資質・能力を身につけることができたかを、ルーブリックを用いて評価する。
10. 本学のリベラル・アーツ教育の学修成果について、直接的指標と間接的指標を用いて、多角的観点から評価を行う。

2. 教育課程の編成の特色

本学は、全学共通カリキュラムと学科科目の2つの柱からなる教育課程を編成し、教養教育と専門教育を融合させたリベラル・アーツ教育を展開している。心理・コミュニケーション学科の教育課程の科目構成は、以下の通りである。

全学 カリ キ ュ ラ ム	リベラル・スタディーズ	総合教養科目
		挑戦する知性科目
		キリスト教学科目
	アカデミック・スキル科目	外国語科目
		日本語科目
		情報処理科目
学科科目		
学芸員課程科目		

上記の他、外国人留学生に対しては、外国人留学生特別科目を置く。

すべての科目にはコースナンバリングを定め、各授業科目の難易度を示し、学修の段階や順序等を表して、体系的なカリキュラムを編成している。学生が4年間を通じて、適切な授業科目を選択し、自律的に履修できるよう配慮している。

本学のコースナンバリングが示す基準は、以下の通りである。

100番台	1年次から履修できるレベルの科目
200番台	2年次以上で学ぶレベルの科目 (100番台の科目を履修した後に履修することが望ましい科目)
300番台	3年次以上で学ぶレベル科目 (200番台までの科目を履修した後に履修することが望ましい科目)
400番台	4年次で学ぶレベルの科目 (300番台までの科目を履修した後に履修する科目)
490番	卒業研究 (卒業論文)
50番の付いた科目は、同じ100番台の科目の中で、より難易度が高い科目。	

(1) 全学共通カリキュラム

全学共通カリキュラムは、本学が掲げる「リベラル・アーツ教育」の重要なひとつの柱として、教養人にふさわしい資質の向上と広範な知識の修得を可能とする課程を編成している。

全学共通カリキュラムは2つの科目区分、すなわち、専門領域を超えた幅広い視野と深い見識を養い、現代の諸問題と向き合う判断力の養成を目的とする《リベラル・スタディーズ》と、本学での勉学に必要なとされる学習方法の習得を目的とする《アカデミック・スキル科目》から構成される。前者には、ア 総合教養科目、イ 挑戦する知性科目、ウ キリスト教学科目を、後者には、エ 外国語科目、オ 日本語科目、カ 情報処理科目を配置している。コースナンバリングを添付する(資料 2-1)。

《リベラル・スタディーズ》

ア 総合教養科目

専門領域を超えて学ぶ探究心、女性の自己確立の基盤となる知識・能力を身につけることを目的に設置している。具体的には、女子大学としての特色を生かした「女性の生きる力」、「女性のウェルネス」の2領域と、人間とそれを巻き巻く世界を学ぶ「人間と自然科学」、「人間自身を知る」、「人間の知的生産」、「人間社会の仕組みと問題」の4領域を置いている。各領域には、その領域に関連するテーマを取り上げる演習科目を置き、学生が学科や学年を超えた議論を通して、発想の多様性に触れ、自己の価値観を再認識する場としている。

「女性の生きる力」、「人間自身を知る」、「人間の知的生産」、「人間社会の仕組みと問題」の4領域から必ず各1科目2単位、「人間と自然科学」領域から必ず2科目計4単位を含め8科目計16単位を必修科目としている。それに加えて、「女性のウェルネス」領域の「女性のウェルネス・身体運動Ⅰ」及び「女性のウェルネス・身体運動Ⅱ」の2科目計2単位を必修科目としている。

イ 挑戦する知性科目

現代社会の問題解決を目指すさまざまな取り組みについて体験的な学びを重ね、生涯にわたって自らのキャリアを主体的に構築し続ける力、多文化共生への理解を深め、外国語の運用能力を駆使して説得的に自己発信する力を養うことを目的として設置している。具体的には、夏期休暇中の約4週間、ケンブリッジ大学で、社会・経済・文化に関する英語による授業を受講する「ケンブリッジ教養講座」、現実社会における課題にチームで取り組み、問題解決力やリーダーシップを高める「PBL キャリア構築講座」、ビジネスで必要とされる英語能力を養成する「英語特別プログラム」、行動的な英語運用能力、広い社会的視野と深い見識をもった国際人の育成を目標とするキャリア・イングリッシュ課程の演習科目を置いている。

ウ キリスト教学科目

本学の教育の根本方針となるキリスト教を学問として学ぶことを目的に設置している。具体的には、旧約・新約聖書の基本を学びつつ、本学の歴史や建学の精神についても深く学ぶ「キリスト教学Ⅰ(入門)」を1年次の必修科目としている。2年次以降の「キリスト教学Ⅱ」では、キリスト教を通して現代社会における国際事情や宗教事情、歴史、文化への理解を深めることができるよう多様な科目を置き、このうち1科目を選択必修科目としている。また、キリスト教に対する知識と理解をさらに深めるために「キリスト教学Ⅲ」を選択科目として置いている。

《アカデミック・スキル科目》

エ 外国語科目

○第一外国語（英語）

英語によるコミュニケーション能力と専門分野の学修につながる英語力の基礎を培うとともに、社会での活動に役立つ応用力を身につけることを目的に設置している。具体的には、「聞く・話す」力を重点的に養成するために外国人教員が

担当する「Communication Skills」(1年次)と「Discussion Skills」(2年次)、英語の読解力を重点的に養成する「Reading」(1年次と2年次)を必修科目としている。「Communication Skills」では、授業外での自習プログラム(e-learning)を単位認定の条件として義務付けている。「Reading」の授業では、課外での eBook の活用を推奨し、多読による読解力を身につけさせるとともに、「聞く・話す・書く」力の向上も視野に入れた授業方法を採り入れている。また、2・3・4年次の選択必修科目(1単位)として、ジャンルや状況に応じた適切な英語運用能力を身につけるための「Academic Writing」「Business English」「Translation」「Tour Guide Interpreting」等や、国際的な英語力測定試験において期待される英語力を養成するための「TOEIC 講座」「TOEFL 講座」「IELTS 講座」を置いており、これらは選択科目としても履修することができる。

○第二外国語(ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・韓国語)

英語圏以外の地域に知識の幅を広げ、異文化を理解し、国際的な広い視野を培うことを目的として、1年次に5つの言語のうちいずれかの「初級」1科目を選択必修とし、文法と発音を中心に基礎を学ばせている。また、2年次以降では各国語の運用能力(読解、作文と文法、会話)をさらに伸ばすことができるよう多様な選択科目を置いている。

○ギリシア語・ラテン語

第一、第二外国語とは別に、本学の掲げるキリスト教主義の源流である西洋の文化や歴史を深く理解するために、西洋古典語であるギリシア語・ラテン語を選択科目として設けている。

オ 日本語科目

大学で学ぶ上で必要な、日本語の論理的な文章表現力、口頭表現力を養うことを目的とし、1・2年次対象の選択科目として「日本語表現法」を置いている。30名程度のクラスでグループワークを行い、論理的表現力、批判的思考力の向上とあわせて、チームワーク力の養成も目指している。

カ 情報処理科目

高度情報化社会で必要な、コンピュータやネットワークの基礎的な知識やスキル、アカデミック・ライティングやプレゼンテーションのためのコンピュータ活用スキルを身につけることを目的とする「情報処理技法(リテラシ)」を1年次必修科目として置いている。さらに、プログラミングやマルチメディア、ネットワークとセキュリティなど、多様なニーズに応える選択科目を置いている。

(2) 心理・コミュニケーション学科の学科科目

学科科目は、入門、基盤講義、特殊講義、基盤演習、発展演習、実験・実習、卒業論文の7区分により構成される教育課程を編成している。すべての科目にはコースナンバリングを定めており、各授業科目の難易度を示して体系的に編成している(資料2-2)。

入門は、1年次の学生が履修する100番台から150番台の科目で構成されている。心理・コミュニケーション学科で学ぶ心理学分野、コミュニケーション分野について広く学び、人間の心のメカニズムや人と社会をつなぐコミュニケーションの問題について理解を深めることを目的とし、「心理・コミュニケーション概論」「心理学概論」「コミュニケーション概論Ⅰ」を学科必修科目として置いている。さらにコミュニケーション専攻では、必修科目3科目を配置し、コミュニケーションの3分野、メディアコミュニケーション、情報デザイン、多文化コミュニケーションの基礎的知識を修得する。

基盤講義は、1・2年次が履修する100番台から250番台の科目で構成されている。

心理学専攻に必修科目6科目を置き、基礎心理学、社会心理学、発達心理学、臨床心理学の4分野について概論4科目で基礎的知識を修得し、「心理学統計法1・2」により心理学の実証研究に不可欠な統計的知識、データ整理および統計分析を学び、実証研究のさまざまな手法を習得し、心理学研究におけるデータの扱い方について理解する。

コミュニケーション専攻に必修科目2科目を置き、「コミュニケーション統計法1・2」により統計学の基礎を習得し、専門科目の学習や卒業論文作成において求められる統計的記述の含まれる論文を読む力と、自分で統計資料を整理し、データを分析する力を養う。さらに選択必修科目として「先端トピック概論（コミュニケーション）A」「先端トピック概論（コミュニケーション）B」を置き、メディアコミュニケーション、情報デザイン、多文化コミュニケーションに関する先端的な研究テーマを扱う。

特殊講義は、2年次から4年次まで履修するため、200番台から350番台の科目により構成されている。心理学専攻の基礎心理学、社会心理学、発達心理学、臨床心理学の4分野についてさらに専門を深めるための講義が19科目置かれている。心理学専攻の学生は、4分野それぞれから2単位必修とし、心理学の様々な分野について広く学ぶことを求めている。コミュニケーション専攻のメディアコミュニケーション、情報デザイン、多文化コミュニケーションの3分野についても52科目の講義が置かれ、それぞれの分野について専門的に学ぶことができるようになっている。コミュニケーション専攻の学生には、幅広いコミュニケーション分野の知識を多角的に学ぶため、メディアコミュニケーション、情報デザイン、多文化コミュニケーションの3分野から、それぞれ2単位を必修としている。

基盤演習は、1年次・2年次を対象にした演習科目群であり、100番台から250番台の科目が置かれている。必修科目「1年次演習（心理学）」「1年次演習（コミュニケーション）」により、大学で学ぶための基礎知識、スタディ・スキル、学問に誠実に向き合う態度を身につける。さらに心理学専攻では、心理学の方法論を初歩的な実験などの体験を通して理解する。「心理学実験入門」を1年次必修科目として置いている。2年次では、心理学専攻は、「2年次演習（心理学）A」「2年次演習（心理学）B」を必修科目として置き、テキストや文献の講読、資料作り、また、少人数という場を活用した発表と討論・質疑応答などを行う。論理的思考力や発表時の表現力を養うとともに、取り上げた心理学のテーマについて深く理解することを目指す。コミュニケーション専攻は、「2年次演習（コミュニケーション）」「コミュニケーション研究法入門」を2年次必修科目として

置いている。「2年次演習（コミュニケーション）」では、1年次で身につけた批判的で主体的・探索的な学習スタイルを発展させ、学術的な文献を読解し、要約したうえで論旨を発表しディスカッションする能力を身につける。コミュニケーション研究は学際的であり、社会学や心理学などさまざまな学問分野で発達してきた多様な研究方法が用いられているが、最も重要な5つ（質問紙調査、実験、内容分析、質的研究、談話分析）の研究方法を「コミュニケーション研究法入門」で学ぶ。このほかに、コミュニケーション専攻の選択必修科目として6科目置いている。

発展演習は、3・4年次が履修する300番台から450番台の科目で構成している。心理学専攻では、「3年次演習（心理学）」「4年次演習（心理学）A」「4年次演習（心理学）B」を必修科目として置いている。「3年次演習（心理学）」では、心理学の発展的な内容を題材とした演習を行う。取り上げた発展的な内容について深く理解することを目指すとともに、卒業論文に主体的に取り組むことができるよう準備をすすめ、自立した学習者となることを目標とする。「4年次演習（心理学）A」「4年次演習（心理学）B」は、学生各々の卒業論文作成に必要な知識や技能の習得を目指す。コミュニケーション専攻では、「3年次演習（コミュニケーション）Ⅰ」「3年次演習（コミュニケーション）Ⅱ」「4年次演習（コミュニケーション）Ⅰ」「4年次演習（コミュニケーション）Ⅱ」を必修科目としている。3年次演習では、専門領域の知見を増やしながらか、次第に自分の研究テーマを深く掘り下げ、自己の問題意識を明らかにし、研究の方法論を確立していくことを目指す。4年次演習では、卒業論文に対応した、実証データの収集、分析、結果の考察、論文執筆の技法を学ぶ。また選択必修科目として、コミュニケーション研究法（実験法、内容分析、質的研究）に関する科目3科目と社会調査法実習に関する科目を3科目置いている。

実験・実習は、1年次から4年次が履修するため、150番台から400番台の科目で構成されている。心理学専攻では、実験・観察・調査・面接等を体験し、データの取り方、その処理の仕方を身につけるため、1年次から4年次まで実験・実習の科目を置いている。1年次に「心理検査実習Ⅰ」、2年次に「心理検査実習Ⅱ」「心理学実験演習ⅠA」「心理学実験演習ⅠB」の3科目を置き、必修科目としている。3年次に「4年次演習（心理学）」や卒業論文への準備段階として位置づけられている実験演習である「心理学特殊実験演習」を必修とし、選択必修科目として「心理学実験演習Ⅱ（実験法）・（調査法）・（質的アプローチ）」の3科目を置いている。さらに選択科目として「心理学実験演習Ⅲ（実験法）」を置いている。コミュニケーション専攻では、多文化コミュニケーションを学ぶための実習科目として「日本語教育実習」が置かれている。

卒業論文は、学生が自らの知的関心に沿って研究テーマおよび問題を設定し、資料・文献をもとに仮説を立て、これを調査・実験・実習等により検証して、明確な根拠とともに提示するという一連の営みを通じて、学士課程での集大成として論文を作成する。それまでに得た知見・能力を統合してこの営みにつなげるために発展演習において考察・議論に必要な力を養い、担当教員の個別指導と授業内外の討論を活かして各自論文執筆を進める。卒業論文提出後、複数の教員による口述試験を実施し、論文の審査を行う。

⑤ 教員組織の編成の考え方及び特色

1. 教員組織の編成の考え方及び特色

東京女子大学方針（そのうち「教員組織の編制方針」資料3）に従い、カリキュラムの編成に沿って、各分野でカリキュラム運営を円滑に行うのに十分な教員を配置している。リベラル・アーツ教育充実の観点から、全学共通教育カリキュラムを中心に担う教員も配置している。また、学科と全学共通教育にバランスよく教員配置を行い、教員組織を適切に編成している。

心理・コミュニケーション学科は、現行の人間科学科の心理学専攻、コミュニケーション専攻、言語科学専攻を基礎として再編した。心理学専攻はおおむね現行の教育体制をとり、コミュニケーション専攻は、現行のコミュニケーション専攻と言語科学専攻のうち日本語教育及び言語学分野の教員によって構成されている。新しい学科の理念に基づいて、各教員は、自分自身の研究実績や教育・社会との経験を活かしつつ、学科の教育全体に責任を持つことになる。

心理学専攻は8名で教育を担当するが、専攻の教育の主たる分野に沿って、基礎心理学1名、発達心理学1名、臨床心理学5名、社会心理学1名で構成されている。

コミュニケーション専攻は、現行の専攻の教育内容を再編して、メディアコミュニケーション、情報デザイン、多文化コミュニケーションの3つの分野から構成される。それぞれを主たる教育分野として担当する教員は、研究の専門、実績、経験に照らして、それぞれ3名、2名、5名、あわせて10名となるが、各教員は以上の3分野にそれぞれ限定されるのではなく、学識や経験をもとに各分野にまたがった学際性をふまえた指導を行う。

初年次及び各年次の演習や実験・実習、専門の基礎となる概論や主要な科目は、原則として専任教員が担当している。学士課程の集大成としている卒業論文は、専任教員が中心となって指導を行っている。

専任教員18名のうち博士学位の取得者は12人、3分の2となり、教育を支える十分な陣容である。

2. 教員組織の年齢構成

専任教員18名の完成年度における年齢構成の状況は、40歳代が2名（教授1名、准教授1名）、50歳代が8名（教授6名、准教授2名）、60～64歳が7名（教授）、65～69歳が1名（教授）である。本学は、学部の「教員組織の編制方針」第3項（資料3）に教員の年齢構成の均衡を図る旨を定め配慮しているが、50歳以上の教員の割合が高くなっている。今後も年齢構成の均衡を図りつつ、教員組織を編成し、教育研究水準の維持向上、教育研究の活性化に支障がない構成を維持する考えである。

⑥ 教育方法，履修指導方法及び卒業要件

1. 教育方法及び履修指導方法

(1) 授業方法

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に基づき、授業の内容に応じた適切な授業方法を設定している。全学共通カリキュラム、学科科目ともに、講義科目、演習科目を配置している。学科科目では、実験・実習科目が置かれている。全員が1年次から4年次にわたり、基盤演習、発展演習と段階的に進む演習科目を履修し、参加型の少人数教育、アクティブ・ラーニングを実施する（P.7カリキュラム・ポリシー参照）。

(2) 授業方法に適した学生数

全学共通カリキュラムの第一外国語では、1クラスの人数を20名程度に設定している。また、学科科目の必修の演習科目については、心理学専攻では、1年次から2年次までは6クラス編成で1クラス13名、3年次・4年次では、9クラス編成で1クラス9名である。コミュニケーション専攻では、1年次は5クラス編成で1クラス23名、2年次は6クラス編成で1クラス20名、3年次・4年次では、13クラス編成で1クラス9名である。両専攻とも年次が上がるに従い、クラスサイズを小さくしている。これは学部教育の総仕上げである、卒業論文を自律的に進める力を養成するためである。

(3) 配当年次の設定

全学共通カリキュラムは、本学が掲げる「リベラル・アーツ教育」のひとつの柱として、1年次から4年次まで、4年間を通じて、教養人にふさわしい資質の向上と広範な知識の修得を可能とする配当年次としている。本学学生は、実際に全学共通カリキュラムを3・4年次においても積極的に履修しており、得られた広い視野と知識を専門の学修に活かすことができている。

心理・コミュニケーション学科の学科科目の配当年次の設定は、以下の通りである。

ア 心理学専攻

各学年の目標		主な科目 (◎必修科目 ○選択必修科目 △選択科目)
1 年 次	心理・コミュニケーション学科で学ぶ分野について広く知る。	◎心理・コミュニケーション概論 ◎心理学概論 ◎コミュニケーション概論 I
	基礎心理学、社会心理学の分野について基礎的知識を習得する。	◎基礎心理学概論 ◎社会心理学概論
	心理学の実証研究に不可欠な統計的知識、データ整理および統計分析の基礎を学ぶ。	◎心理学統計法 1
	スタディ・スキルの基礎を身につける。	◎1年次演習（心理学）

	心理学の研究方法を初歩的な実験などを通して学ぶ。 心理学において用いられる代表的な心理アセスメントの理論や基本的な技法について学ぶ。	◎心理学実験入門 ◎心理検査実習 I
2 年 次	発達心理学、臨床心理学の分野について基礎的知識を習得する。	◎発達心理学概論、◎臨床心理学概論
	心理学の実証研究に必要な統計、分析などの技能と知識を習得する。	◎心理学統計法 2
	観察、面接、実験、調査などを通して、心理学の基本的な研究方法を理解し習得する。	◎心理検査実習 II ◎心理学実験演習 I A ◎心理学実験演習 I B
	取り上げた心理学のテーマを深く理解するとともに、3年次演習で必要なスキルを身につける。	◎2年次演習（心理学）A ◎2年次演習（心理学）B
	【2・3・4年次共通】 心理学の各研究領域における専門的な知識を習得する。	○特殊講義の16科目から4領域それぞれ2単位必修 △特殊講義 3科目
3 年 次	取り上げた心理学の発展的な内容について深く理解するとともに、卒業論文に向けて主体的に学習に取り組む力を養う。	◎3年次演習（心理学） 【3・4年次共通】 △心理学特殊演習（先端）、（応用）
	より発展的な研究技法を習得する。	○心理学実験演習 II（実験法）、（調査法）、（質的アプローチ）の3科目から1単位必修 【3・4年次共通】 △心理学実験演習 III（実験法）
	卒業論文における研究に必要な専門的な知識や技能を習得する。	◎心理学特殊実験演習
4 年 次	一人一人の関心に基づいて実証的な研究を進め、4年間の学習の集大成としての卒業論文を完成させる。卒業論文における研究を中心として、研究の発想、文献の渉猟と精読、研究計画の立案と実施、データの定量的・統計的な分析と検定、質的データの分析結果の解釈、論文の執筆といった、さまざまな作業を学生自身が推し進める。	◎4年次演習（心理学）A ◎4年次演習（心理学）B ◎卒業論文

イ コミュニケーション専攻

各学年の目標		主な科目 (◎必修科目 ○選択必修科目△選択科目)
1 年 次	心理・コミュニケーション学科で学ぶ分野について広く知る。	◎心理・コミュニケーション概論 ◎心理学概論 ◎コミュニケーション概論 I
	スタディ・スキルの基礎を身につける。	◎1年次演習 (コミュニケーション)
	コミュニケーションの3領域に関する基本的な考え方を身につける。	◎コミュニケーション概論 II (メディア) ◎コミュニケーション概論 II (情報デザイン) ◎コミュニケーション概論 II (多文化)
	コミュニケーション3領域に関する研究の先端的な内容について知る。	○先端トピック概論 (コミュニケーション) A、Bの2科目より2単位必修
【1・2・3年次共通】 コミュニケーションの研究分野に関連するスキルを学ぶ		○基盤演習6科目
2 年 次	研究法の基本を身につける。	◎コミュニケーション統計法1 ◎コミュニケーション統計法2 ◎コミュニケーション研究法入門
	コミュニケーションの専門的な内容について理解を深める。	◎2年次演習 (コミュニケーション)
	【2・3・4年次共通】 専門知識を得つつ、専門内の視野を広げる。	○特殊講義 コミュニケーション各論の44科目から3領域それぞれ2単位必修 △特殊講義 8科目
3 年 次	コミュニケーション研究法を深め活用できるレベルにする。	○コミュニケーション研究法実習(実験法)、(内容分析)、(質的研究)と社会調査法実習(質問紙調査) Iの4科目から2単位必修 ○社会調査法実習(質問紙調査) II、多変量解析の2科目より2単位必修
	自分の研究テーマをみつけていく。	◎3年次演習 (コミュニケーション) I ◎3年次演習 (コミュニケーション) II
	【2・3・4年次共通】 コミュニケーションのそれぞれの領域の専門的な内容について理解をすすめる。	○特殊講義 (コミュニケーション各論の各科目) △特殊講義 8科目
4 年 次	これまでの学習を有機的に結合し、研究プロジェクトという形で自らがテーマとする問題に取り組み、実証的データの裏付けをもって論理的に学んだ成果を表現することができるようにする。	◎4年次演習 (コミュニケーション) I ◎4年次演習 (コミュニケーション) II ◎卒業論文

(4) 履修モデル

心理・コミュニケーション学科の2つの専攻に対応した履修モデルを添付する(資料4)。いずれも現代に生きる人間のあり方を考究・提言できる人材養成を目指す履修モデルとしている。本学では、全学科で履修モデルを作成し、学生が各自の問題意識、

学習の目的に応じて主体的に学習できるように、大学公式サイトで公開している。

心理学専攻	基礎心理学・社会心理学を中心に学び、科学的視点をもとに社会への貢献を目指す
	人間発達の道筋と臨床心理学を中心に学び、大学院に進学して臨床心理士を目指す
コミュニケーション専攻	メディア・コミュニケーションを中心に学び、広告・広報関係の専門家を目指す
	情報デザインを中心に学び、世の中のモノゴトをユーザ中心に改革できる人材を目指す
	多文化コミュニケーションと文化心理学を中心に学び、グローバルに活躍する日本語教師をめざす

(5) 履修指導

個別の学習指導を可能にするため、専任教員がアドバイザーとして学生一人ひとりを担当するアドバイザー制度を実施する。アドバイザーは学期始めに履修指導を行い、履修登録に関する相談を行う。学期中はオフィス・アワーにおいて、学習の進め方や専門分野に関する相談を行う。また、教育成果の段階的な測定とそれに基づく適切な学習指導を行うため、4年次学生を、卒業研究を行うことが可能な者と位置づけ、3年次から4年次への進級条件を設ける。

2. 卒業要件

現代教養学部の卒業要件は、東京女子大学学則（第11条の2、第12条、第16条）において、4年以上在学して所定科目につき130単位以上を修得した者に、教授会の議を経て、学長がその意向を参酌して卒業を認定し、学士の学位を授与する旨を明示している。

心理・コミュニケーション学科では、卒業に必要な最低単位数130単位の内、全学共通カリキュラムは41単位を、学科科目（自学科）は64単位を必修としている。学生各自の関心や学習計画により履修科目を構成する自由選択科目は25単位としている。科目区分ごとの卒業に必要な必修科目、選択必修科目、選択科目及び単位数は下表の通りである。

現代教養学部 心理・コミュニケーション学科 卒業要件（修得すべき授業科目と単位数）

全学 共通 カリ キュ ラム	リベラル・ スタディーズ	総合教養科目	必修科目（2科目計2単位）及び 選択必修科目（8科目計16単位）	18単位
		キリスト教学科目	必修科目（2科目計4単位）及び 選択必修科目（1科目2単位）	6単位
	アカデミック・ スキル科目	外国語科目	第一外国語 必修科目（8科目計8単位） 及び選択必修科目（1科目1単位）	9単位
		情報処理科目	第二外国語 選択必修科目（1科目4単位）	4単位 計13単位
学科科目（自学科）		必修科目、選択必修科目、選択科目合わせて		64単位
自由選択科目				25単位
総 計				130単位

3. 卒業論文の単位数

現代教養学部では、学士課程の集大成としての卒業研究を全学科必修としている。本学では、大学設置基準第21条に基づき、卒業論文について、学修の成果を評価して単位を付与するものとし、担当教員の丁寧な個別指導のもとで行われるこれらに必要な学修等を考慮して、単位数を8単位と定めている。

4年次学生は、「卒業論文」について、年度初めに、所定の手続きにより履修登録を行うとともに、題目を所属専攻に届け出て、専攻の審議承認を受けなければならない。

4年次学生は、3、4年次演習や実験・実習を通じて得られた、専門分野の知見や方法論を十分に生かしつつ、担当教員の丁寧な個別指導のもとで、学生が自らの知的関心に沿って研究テーマおよび問題提起を設定する。資料・文献をもとに仮説を立て、これを調査・実験・実習等により検証して、明確な根拠とともに提示するという一連の営みを通じて、学士課程での集大成として論文を作成する。

4年次学生は、12月中旬の所定日までに論文を提出する。審査は、複数の教員から成る主査・副査体制により、口述試験なども含め、厳密に行われる。

「卒業論文」については、以上のような指導と評価の体制を整えており、8単位を付与することは適切だと考える。

4. 履修科目の年間登録上限

単位の実質化と学修成果の向上につなげるため、1年間に履修できる単位数の上限を44単位としている。1年次学生に対しては、専門分野に偏ることなく、基本的な学習能力と広範で多様な基礎知識を得させるために、自学科科目の履修登録単位数の上限を1年間に20単位としている。

5. 他大学における授業科目の履修等の考え方

本学以外で修得した単位及び学修については、本学が教育上有益と認めるときは、合わせて60単位を超えない範囲で、本学で修得した単位として認定することができる。

- (1) 日本国内の他大学との協定に基づき、履修した授業科目の単位
- (2) 外国の大学において履修した授業科目の単位（留学による単位）
- (3) 外国の大学とあらかじめ協議の上実施する語学研修及び教養講座における学修
- (4) 本学入学前に在学した大学又は短期大学において履修した授業科目の単位
- (5) 文部科学大臣が別に定める技能審査等における成果に係る学修で、本学が大学教育に相当する水準を有すると認めたもの（実用英語技能検定、TOEFL等）

⑦ 施設、設備等の整備計画

ア. 校地、運動場の整備計画

心理・コミュニケーション学科は、既設の人間科学科を統合再編して設置するため、基本的な施設・設備等はすでに整備されている。

本学は現在、東京都杉並区善福寺に、学部学生、大学院学生共に学ぶ1キャンパスを有し、その校地面積は89,453㎡、校舎面積は23,256㎡である。学生が勉学するにふさわしい環境を整え、安全で安心できるキャンパスを提供することを第一に考えキャンパスを整備している。

運動場は本学校地内にあり（9,235㎡）、この中にテニスコート3面（平成27(2015)年度、人工芝張り替え済）を備えている。運動場は教育課程に設置されている「総合教養科目」の授業で使用するほか、学生のサークル活動にも積極的に利用されている。また、運動場は平成28(2016)年度に天然芝の全面張り替え工事を実施した。

体育館棟（25号館、面積約2,730㎡）には、大小2つのアリーナ、多目的ホール、トレーニングルーム、クライミングウォールを備えている。その他に、学生、教職員の安全（緊急時の避難場所・動線確保）と憩いの場所として、VERA広場、croSS広場が整備されている。また、校地等面積（94,533㎡）の4割以上（41,770㎡、平成29(2017)年1月現在）が杉並区みどりの条例第12条第1項の規定に基づく樹林であり、緑豊かな学習環境を提供している。

イ. 校舎等施設の整備計画

本学の校舎面積は23,256㎡で、学部及び大学院の授業はこの中で行っている。これらには、歴史的建造物を含んでおり、安全で質の高い教育施設として使えるよう整備し、環境に配慮した施設設備の整備を行っている。集中管理センターには緊急時の対応に耐え得るシステムを有し、学内の安全と快適な教育・研究環境を整備している。

また、本学は全教員の研究室を備えている。平成21(2009)年度に竣工した23号館は、設備・機能面を重視するだけでなく、学生、教員間のコミュニケーションがとれるよう工夫しており、各階に共用のコミュニケーションスペースを確保した。教室・研究

室棟として4号館、8号館、23号館および25号館の1研究室当たりの面積は、約20㎡である。今回新設する心理・コミュニケーション学科は、既設の人間科学科を統合再編して設置するため、基本的な施設・設備等はすでに整備されている。

また、授業の内容、目的等に配慮した様々な種類、規模の教室を提供している。100名以上の比較的大きな教室から40名程度収容の教室、小規模教室（10～20名）、視聴覚教室、情報処理教室、実験・実習室があり、大学全体で共同利用している。平成27(2015)年度には、本館および25号館の各1教室をアクティブ・ラーニングに対応できるよう改修した。新設学科の教育においても、現有の施設で充分対応が可能である。時間割表を添付する(資料5)。

ウ. 図書等の資料及び図書館の整備計画

(1) 図書の整備状況と整備計画の適切性

現在の図書館の所蔵冊数は和書387,988冊、外国書141,205冊で、既存の学部・学科の教育研究のための十分な蔵書がある。その他学術雑誌は4,939種(うち外国語1,738種)所蔵し、年間の受入雑誌は578種(うち外国語161種)である。資料選定方法として、各学科・専攻および全学共通カリキュラムなど各科目配分予算による関連分野の資料選定、図書館委員会内の選書委員会による学部学生の教育に必要な資料の選定、高額図書・視聴覚資料選定等多様な視点からの資料選定を行っており、シラバス公開の教科書・参考図書も合わせて収集している。

平成30(2018)年度新しく設置する学科は既存の学科を再編するものであるため、現在の蔵書(冊数・種類)で教育研究に支障はない。心理・コミュニケーション学科については、関連分野の心理学、精神医学、情報科学、マスコミュニケーション等の図書は約34千冊(うち外国書12千冊)、継続購入雑誌127種を備えているが、次に示す既存の学術雑誌に加えてさらに整備を進める。

【心理・コミュニケーション学科の主な既存学術雑誌】

Journal of Clinical Psychology、Psychological Sciences、Developmental Psychology、Journal of Personality and Social Psychology、Memory and Cognition、心理臨床学研究、心理学研究、社会心理学研究、発達心理学研究、基礎心理学研究、Language & Communication、Journal of Communication、Communication Research、International Journal of Intercultural Relations、Media, Culture & Society、情報処理学会論文誌、情報処理学会研究報告、マス・コミュニケーション研究、社会言語学、社会と調査

(2) デジタルデータベース、電子ジャーナル等の整備計画

デジタルデータベースは大学全体で現在25種類、電子ジャーナルは7,931タイトルを導入しており、電子ブックも87,506冊が利用可能となっている。心理・コミュニケーション学科に関連するデータベースとしてはEBSCO社のPsycINFO、Newspaper Source Plusやmagazine plus、聞蔵IIビジュアル、日経テレコン21等をそろえている。教員からの多様な要望に応えるため、平成30(2018)年度からElsevier社の

ScienceDirect について論文単位の購入ができる Pay Per View オプションの利用を開始する予定で平成 28(2016)年度から試行利用している。学術雑誌は電子資料に移行する方針のため、現在購入している冊子体雑誌を段階的に電子ジャーナルに切り替えている。

また、国立国会図書館の「デジタル化資料送信サービス」に参加しサービスを提供している。

(3) 図書館の閲覧室、閲覧席数、レファレンス・ルーム、検索手法等の適切性

閲覧室は座席数 750 席で学部・大学院の収容定員の約 20%の座席が確保されている。館内は平成 20(2008)年度よりコミュニケーション・オープンスペース、グループ閲覧室、リフレッシュルーム等のグループ学習ができるラーニングcommons、静穏な閲覧席および個人ブースなど、学生のニーズに合わせた多様な空間を設け、学生の主体的な学びを支援している。OPAC 用端末 9 台、電子資料等閲覧用端末 16 台のほかメディアスペースにデスクトップ PC52 台、貸出用ノート PC22 台、講習会用 PC 20 台の計 119 台の端末があるほか、館内の学内無線 LAN (Docodemo-net) により持ち込み PC、スマートフォン等による検索・利用も可能となっている。

約 380 千冊の資料が開架として配置されており、約 508 千冊の資料が OPAC により学内外からいつでも所蔵検索が可能である。レファレンス資料としては、約 24 千冊のレファレンスブックを備え、電子化されたレファレンスブックも積極的に導入し、他の電子ジャーナルやデータベースとともに、VPN (Virtual Private Network:インターネット経由で個人ごとのアカウントにより仮想的に学内ネットワーク環境と同じ利用が可能になる仕組み) により、学内はもとより学外からでも電子資料へのアクセスが可能となっている。また、電子ジャーナル検索後にフルテキスト論文等を容易に入手できるようリンクゾルバを導入している。大学の学修に必要なこうした検索手段を有効利用できるよう情報検索能力を早い段階で習得させるため、「1 年次必須情報検索ガイダンス」や「ゼミ別追加ガイダンス」を実施している。さらに学生協働サポート体制を敷き、ピアサポートによる学習支援も実施している。

開館時間は通年で平日は 9 時から 21 時まで (夏・春休暇中 8・9・2 月は 19 時まで)、土曜日は 10 時から 18 時まで、日曜は 10 時から 18 時まで (7 月・10 月～翌年 1 月) 開館し、教育研究環境を整えている。

(4) 他の大学図書館等との協力

図書館では国立情報学研究所の NACSIS-CAT/ILL の図書館間ネットワークに参加すると共に、学術情報へのアクセス環境の充実をはかり、相互協力システムを活用して大学図書館間で文献複写や現物貸借等資料を迅速に提供しあう体制を整えている。また、私立大学図書館協会の東地区部会、東京西地区大学図書館協議会に所属し、館員を研修に積極的に派遣し大学図書館界の動向を注視しサービスの改善に努めている。聖心女子大学図書館と相互利用の覚書を締結しており今後も他の図書館との相互利用を促進していく。

東京女子大学学術情報リポジトリにより本学の学術研究成果をインターネット上で公開している。オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)に加盟しており、さらなる充実のため今後の JAIRO Cloud (NII 開発のリポジトリシステム) の利用検討を始めている。

⑧入学者選抜の概要

1. アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

本学は、アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)を以下のとおり定めている。

東京女子大学では、その教育理念、ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)及びカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)のもと、自ら考え行動しようとする学習意欲の高い女性を求めます。多様な経歴・目的意識をもった女性に広く門戸を開いています。

心理・コミュニケーション学科は、ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)及びカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)に定める教育を受けるために高等学校の教育課程の内容を幅広く修得し、次に掲げる知識・技能、能力、目的意識・意欲を備えた女性を求めます。

- (1) 日本語の的確な理解力や表現力、外国語(英語)の基礎的な運用能力を身につけている。
- (2) 現代社会や歴史についての基礎的な知識や数学的な思考力を身につけている。
- (3) 知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。
- (4) 人間の心理と行動、コミュニケーションについて興味を持ち、心理学やコミュニケーションに関する知識と能力を活かして、社会に貢献したいという意欲がある。

2. 入学者選抜方法

上述のアドミッション・ポリシーに基づき、一般入学試験(3教科型)、一般入学試験(英語外部検定試験利用型)、大学入試センター試験3教科型入学試験、3月期入学試験、知のかけはし入学試験、推薦入学、社会人入学試験、帰国生入学試験、外国人留学生入学試験、外国人留学生対象日本語学校指定校制推薦入学、編入学試験、学士入学試験を実施する。なお、推薦入学は入学定員の2割程度とする。

- (1) **一般入学試験(3教科型)** : 3科目の本学独自試験の成績により合否判定を行う。
- (2) **一般入学試験(英語外部検定試験利用型)** : 英語外部検定試験で一定の成績を修めた者に対し、一般入学試験の「外国語(英語)」以外の科目の成績で合否判定を行う。
- (3) **大学入試センター試験3教科型入学試験** : 大学入試センター試験の成績のみにより合否判定を行う。
- (4) **3月期入学試験** : 大学入試センター試験の成績のみにより合否判定を行う。大学入試センター試験の利用教科・科目・配点は大学入試センター試験3教科型入学試験とは

異なる。

- (5) **知のかけはし入学試験**：志願者の意欲・個性・学力・資質を出願書類、講義ノート、小論文、グループディスカッションおよび面接等により多面的・総合的に評価し合否判定を行う。
- (6) **推薦入学**：一定の選定基準により選定した指定校の高等学校長の推薦に基づき、出願書類と面接により合否判定を行う。
- (7) **社会人入学試験**：入学時まで満25歳に達している者を対象に実施する。筆記試験、面接及び出願書類の総合判定により合否判定を行う。出願条件として、英語の外部検定試験結果の提出を基準を設けて課す。
- (8) **帰国生入学試験**：海外生活を経験した者を対象に実施する。筆記試験、面接および出願書類の総合判定により合否判定を行う。出願条件として、英語の外部検定試験結果の提出を基準を設けて課す。
- (9) **外国人留学生入学試験**：日本国籍を持たない女子で、外国において日本以外の学校教育制度による12年の課程を修了した者を対象とする。第一次選考（出願書類および日本留学試験の日本語の成績に基づいて審査を行う）合格者に対し第二次選考（面接）を行い、合否を判定する。
- (10) **外国人留学生対象日本語学校指定校制推薦入学**：本学が指定した日本語学校長の推薦に基づき、出願書類と面接により合否判定を行う。出願条件として、日本留学試験の成績および英語の外部検定試験結果の提出を基準を設けて課す。
- (11) **編入学試験**：一般編入学試験は、短期大学卒業（見込）者または4年制大学に2年以上在学した者を対象とする。第一次選考（学力試験：専門科目）、第二次選考（面接）および出願書類により合否判定を行い、合格者は3年次に入学する。社会人編入学試験は、同学歴で入学時に満30歳に達している者を対象とし、専門科目、面接および出願書類により合否判定を行い、合格者は2年次に入学する。いずれも出願条件として、外国語資格・検定試験の提出を基準を設けて課す。
- (12) **学士入学試験**：一般学士入学試験は、4年制大学卒業者を対象とする。第一次選考（学力試験：専門科目）、第二次選考（面接）および出願書類により合否判定を行い、3年次に入学する。社会人学士入学試験は、同学歴で入学時に満30歳に達している者を対象とし、専門科目、面接および出願書類により合否判定を行い、合格者は2年次に入学する。いずれも出願条件として、外国語資格・検定試験の提出を基準を設けて課す。

3. 科目等履修生、聴講生、研究生

正規の学生以外の者として、以下の者を受け入れることがある（受入れ人数は若干名）。

(1) 科目等履修生

20歳以上の女子で高等学校を卒業した者又はこれと同等以上の資格を有する者を対象とする（ただし、教育職員免許状又は学芸員資格の取得を目的とする場合は、学士の学位を有する者に限る）。本学所定の授業科目中、その1科目又は数科目の履修を願った者に、授業に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生として履修を許

可することがある。選考は、書類審査及び面接による。履修期間は1年又は半年とし、履修単位数は年間26単位を上限とする。

(2) 聴講生

高等学校も若しくは中等教育学校を卒業した女子又はそれに準ずる女子を対象とする。本学所定の授業科目中、その1科目又は数科目の聴講を願い出る者に、授業に支障のない場合に限り、聴講生として聴講を許可することがある。選考は、書類審査による。聴講期間は1年又は半年とする。単位を修得することはできない。

(3) 研究生

大学を卒業した女子が研究事項を定めて本学で指導教員の指導を受けて研究することを願い出たときは、選考の上、研究生としてこれを許可することがある。選考は、当該の学科及び専攻において行う。研究期間は1年とし、研究報告の提出を必須とする。

⑨ 取得可能な資格

取得可能な資格	国家資格又は民間資格の種別	資格取得又は受験資格の別	資格取得が修了要件なのか又は追加科目を履修する必要があるかの別
認定心理士	民間資格	資格取得可能	卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。
社会調査士	民間資格	資格取得可能	卒業要件単位に含まれる科目の履修のみで取得可能だが、資格取得が卒業の必須条件ではない。
学芸員	国家資格	資格取得可能	卒業要件単位に含まれる科目のほか、学芸員関連科目の履修が必要

⑩ 編入学した者の既修得単位の認定方法、履修指導方法

本学は、編入学定員を学則上に定めてはいないが、定員の範囲で若干名を募集している。単なる欠員補充ではなく、本学のアドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に基づき、多様な経歴・目的意識をもった女性に広く門戸を開くという趣旨の下、志願者の学力や学習意欲などを審査し選抜を行っている。

編入学した者の入学前に修得した単位は、入学時に限り、本学で修得した単位として62単位を上限として認定する。学科において、丁寧な履修指導を行っている。

⑪ 管理運営

平成27(2015)年4月の学校教育法の一部改正の趣旨に沿って、本学では、学長のリーダー

ーシップもとでの戦略的な大学運営を可能とするためのガバナンス体制を構築するため、大学の組織および運営体制を整備し、教授会の役割を明確化した。本学では、学則および教授会規程等を改正し、教育研究に関する意思決定プロセスを見直し、学長の最終決定権を担保した。

東京女子大学学則第 8 条の 2 に基づき教授会を置いている。教授会は、学部所属の教授、准教授、専任講師によって構成され、原則として月 1 回開催される。学則第 8 条の 2 および教授会規程第 4 条に基づいて、学長が決定を行うにあたり、意見を述べるものとしている。審議事項は、(1) 学生の入学、卒業に関する事項、(2) 学位授与に関する事項、(3) 前 2 号に掲げる事項のほか、教育研究に関する重要な事項（学長裁定事項）である。

なお、教授会で審議した事項のうち特に重要なものは、教学の最高審議機関である大学評議会へと審議が進められる。大学評議会の審議事項は、東京女子大学学則第 8 条第 3 項および第 4 項、大学評議会規程第 6 条に明記されている。

さらに学則その他重要な規則の改廃、学部・学科・研究科・専攻等の設置及び廃止、教員の採用・昇任に関する業績審査、教育研究に関する長期展望に係る事項等の教育研究に関する重要事項の意思決定については、大学評議会の意向を参酌して、学長が理事会に提案し、理事会が最終決定している。

⑫ 自己点検・評価

1. 実施方法

本学は、平成 4（1992）年から自己点検委員会[平成 12(2000)年から自己点検・評価委員会]を設置して、大学全体として自己点検・評価に取り組んでいる。自己点検・評価委員会規程には「建学の精神に基づき教育目的及び社会的使命を達成し教育研究水準の向上を図るために（中略）自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する」ことを規定している。

また、同規程第 6 条に「委員会の下に自己点検・評価専門委員会（以下「専門委員会」という。）を置くことができる。」と規定しており、テーマに即し相応しい専門委員会を設置し、自己点検・評価を行っている。各専門委員会は取りまとめた自己点検・評価報告書案を自己点検・評価委員会に提出することとなっている。同委員会は客観的な数値データを踏まえ、現状把握、点検・評価を行い、全学的見地からその妥当性を検証している。

2. 実施体制

自己点検・評価委員会は、学長指名による委員長、学長、学部長、全学共通教育部長、大学院合同研究科会議議長、学部及び大学院教務委員長、事務局長等 14 名により構成し、教育研究組織、教育内容・方法等について、全学的見地から自己点検・評価を適切に行っている。

前述の専門委員会に加え、恒常的に、アドミッション・ポリシーに沿う学生を獲得できているかを検証するアドミッション専門委員会、教学情報を中心にデータ分析を行う IR 専門委員会を設置している。両専門委員会の分析を踏まえ、自己点検・評価委員会は客観性あるデータを元に改善・改革に向けた提言を行っている。

さらに本学の自己点検・評価活動の客観性を担保するため、認証評価以外にも外部評価を積極的に実施している。本学の取組が、3つのポリシーを踏まえ社会の要請に応えたものであるかを客観的に評価してもらうため、外部評価委員は、大学関係者以外からも選任している。

3. 結果の活用・公表及び評価項目等

平成 26(2014)年度、平成 27(2015)年度には、以下の全項目について全学的な自己点検・評価を行った。

1. 理念・目的、2. 教育研究組織、3. 教員・教員組織、4. 教育内容・方法・成果、5. 学生の受け入れ、6. 学生支援、7. 教育研究等環境、8. 社会連携・社会貢献、9. 管理運営・財務、10. 内部質保証。

平成 27(2015)年 6 月には、平成 26(2014)年度に行った全学的な自己点検・評価について、外部評価を行った。平成 26(2014)年度自己点検・評価結果及び外部評価結果を踏まえ、改善すべきところは改善し平成 27(2015)年度の自己点検・評価に繋げている。

平成 28(2016)年度には「2015 年度東京女子大学自己点検・評価報告書」「大学基礎データ」に基づき、大学基準協会による認証評価を受審し、大学基準に適合している旨認定を受けた。各部署(学部、研究科等)および大学全体の自己点検・評価結果および外部評価の結果を確実に改善に結びつけ、PDCA サイクルを機能させていることから、学内の内部質保証システムについて高評価を得ている。

自己点検・評価結果および外部評価結果は、すべて本学公式サイトに公表している(<http://office.twcu.ac.jp/univ/about/gp/valutaion/index.html>)。また、改善・改革を必要とする事項は、自己点検・評価委員会が改善の方向づけを行い、各部署にフィードバックし、自己点検・評価委員会が改善状況を定期的に確認している。

自己点検・評価の結果、大学全体に関わる改善事項は、大学評議会の下部組織である将来計画推進委員会に提言し、同委員会は、改善策を具体化し各部署に実行を指示している。今般の新学科の設置も自己点検・評価の結果を受けての改善であり、本学では、自己点検・評価委員会と将来計画推進委員会が連携して改善・改革を速やかに行っている。

⑬ 情報の公表

本学では、従来から公的な教育機関として、大学の社会に対する説明責任を果たすとともに、自らの教育の質を向上させるため、本学公式サイト等を通じて、教育研究活動の状況等について、情報提供に努めている。

学校教育法施行規則第 172 条の 2 に規定にされている教育情報の全項目を含め、教育研究活動等の情報については、公式サイト「情報公開」より各ページへアクセスできるようにするとともに、内容の充実を図っている。主なものは以下の通りである。

1. 大学の教育研究上の目的に関すること

- ・東京女子大学学則

http://office.twcu.ac.jp/univ/about/introduction/rule/code_dept_2017.pdf

- ・現代教養学部
<http://office.twcu.ac.jp/univ/academics/sas/edu-policy/>

2. 教育研究上の基本組織に関すること

- ・学校法人東京女子大学組織図（大学）
http://office.twcu.ac.jp/univ/about/introduction/organization/files/int_07_pdf_01_1.pdf
- ・東京女子大学学則
http://office.twcu.ac.jp/univ/about/introduction/rule/code_dept_2017.pdf
- ・現代教養学部
<http://office.twcu.ac.jp/univ/academics/sas/>

3. 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

- ・組織図
<http://office.twcu.ac.jp/univ/about/introduction/organization/index.html>
- ・教職員数・教員一人当たりの学生数
http://office.twcu.ac.jp/univ/about/info/pdf/02_kyousyokuinsuukyouninhiatoriatarinogakuseisuu.pdf
- ・東京女子大学教員情報データベース
<https://kenkyu-db.twcu.ac.jp/scripts/websearch/index.htm>

4. 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

- ・アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）／学部（現代教養学部）
<http://office.twcu.ac.jp/univ/academics/sas/edu-policy/#anc02>
- ・入学者数、入学者数推移
<http://office.twcu.ac.jp/univ/admissions/dept-admission/past-data/>
- ・収容定員・在籍学生数
http://office.twcu.ac.jp/univ/about/info/pdf/05_syuyouteiinzaiseikigakuseisuu.pdf
- ・卒業生数
<http://office.twcu.ac.jp/univ/about/info/pdf/numberofgraduates.pdf>
- ・進学者数・就職者数・その他進学及び就職等の状況に関すること
<http://office.twcu.ac.jp/univ/career/stats/#anc2>

5. 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

- ・カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）／学部（現代教養学部）
<http://office.twcu.ac.jp/univ/academics/sas/edu-policy/#anc03>
- ・シラバス
<http://office2.bb.twcu.ac.jp/syllabus.html>
- ・教育課程等
全学共通カリキュラム（リベラル・スタディーズ／アカデミック・スキル科目）
<http://office.twcu.ac.jp/univ/academics/sas/curriculum/liberal-studies/#anc01>
<http://office.twcu.ac.jp/univ/academics/sas/curriculum/academic-course/#anc01>
学科科目

人文学科（哲学専攻・日本文学専攻・英語文学文化専攻・史学専攻）

<http://office.twcu.ac.jp/univ/academics/sas/humanities/#anc01>

<http://office.twcu.ac.jp/univ/academics/sas/humanities/philosophy/#anc02>

<http://office.twcu.ac.jp/univ/academics/sas/humanities/japanese-literature/#anc02>

<http://office.twcu.ac.jp/univ/academics/sas/humanities/english-literature/#anc02>

<http://office.twcu.ac.jp/univ/academics/sas/humanities/history/#anc02>

国際社会学科（国際関係専攻・経済学専攻・社会学専攻）

<http://office.twcu.ac.jp/univ/academics/sas/transnational-studies/#anc01>

<http://office.twcu.ac.jp/univ/academics/sas/transnational-studies/international-relations/#anc02>

<http://office.twcu.ac.jp/univ/academics/sas/transnational-studies/economics/#anc02>

<http://office.twcu.ac.jp/univ/academics/sas/transnational-studies/sociology/#anc02>

人間科学科（心理学専攻・コミュニケーション専攻・言語科学専攻）

<http://office.twcu.ac.jp/univ/academics/sas/human-science/#anc01>

<http://office.twcu.ac.jp/univ/academics/sas/human-science/psychology/#anc02>

<http://office.twcu.ac.jp/univ/academics/sas/human-science/communication/#anc02>

<http://office.twcu.ac.jp/univ/academics/sas/human-science/linguistics/#anc02>

数理科学科（数学専攻・情報理学専攻）

<http://office.twcu.ac.jp/univ/academics/sas/mathematics/#anc01>

<http://office.twcu.ac.jp/univ/academics/sas/mathematics/mathematics/#anc02>

<http://office.twcu.ac.jp/univ/academics/sas/mathematics/information-science/#anc02>

6. 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

- ・ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）／学部（現代教養学部）

<http://office.twcu.ac.jp/univ/academics/sas/edu-policy/#anc04>

- ・学修成果の評価

<http://office.twcu.ac.jp/univ/academics/sas/evaluation/>

- ・卒業要件・学位

<http://office.twcu.ac.jp/univ/academics/sas/graduation-requirements/>

7. 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

- ・キャンパスマップ

<http://office.twcu.ac.jp/univ/about/campus/map/>

- ・交通アクセス

<http://office.twcu.ac.jp/univ/access/>

- ・ 教室・研究棟
<http://office.twcu.ac.jp/univ/about/campus/building/>
- ・ 運動施設
<http://office.twcu.ac.jp/univ/about/campus/sportsfacilities/>
- ・ 図書館
<http://office.twcu.ac.jp/univ/facilities/library/>
- ・ その他施設
<http://office.twcu.ac.jp/univ/about/campus/other/>

8. 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

- ・ 入学金、授業料、施設費、その他の費用
<http://office.twcu.ac.jp/univ/campuslife/tuition/due-date/>
- ・ 学寮の経費
<http://office.twcu.ac.jp/univ/campuslife/facilities/dormitory/#expenses>

9. 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

- ・ 修学に関する支援（奨学金、アドバイザー制度等）
<http://office.twcu.ac.jp/univ/campuslife/scholarship/>
<http://office.twcu.ac.jp/univ/campuslife/support/adviser/index.html>
- ・ 進路選択に関する支援（キャリア支援・進路決定状況・活躍する卒業生・過去3年分の卒業生の主な就職先）
<http://office.twcu.ac.jp/univ/career/>
<http://office.twcu.ac.jp/univ/career/stats/>
<http://office.twcu.ac.jp/univ/career/graduate/>
http://office.twcu.ac.jp/univ/career/stats/car_06_pdf_02.pdf
- ・ 心身の健康等に関する支援（保健室・学生相談室・障がい学生支援・ハラスメント防止への取組）
<http://office.twcu.ac.jp/univ/campuslife/support/healthcare/>
<http://office.twcu.ac.jp/univ/campuslife/support/consultation/>
<http://office.twcu.ac.jp/univ/campuslife/support/special-needs/>
<http://office.twcu.ac.jp/univ/campuslife/safety/harassment-advice/>
- ・ その他の支援（課外活動、学生研究奨励費、図書館学習支援体制等）
<http://office.twcu.ac.jp/univ/campuslife/activities/>
<https://gakkai.jimdo.com/%E5%AD%A6%E7%94%9F%E7%A0%94%E7%A9%B6%E5%A5%A8%E5%8A%B1%E8%B2%BB/>
<http://library.twcu.ac.jp/sogo/>

10. その他

- ・ 設置の届出書・履行状況
<http://office.twcu.ac.jp/univ/about/info/outline/>
- ・ 自己点検・評価、認証評価等
<http://office.twcu.ac.jp/univ/about/gp/valutaion/>
- ・ 修学に関する規程
<http://office.twcu.ac.jp/univ/about/introduction/rule/index.html>

⑭ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学では、「大学設置基準等の一部を改正する省令」が平成 28(2016)年 3 月 31 日に公布され、平成 29(2017)年 4 月 1 日付で施行されたことを受け、本学では平成 28(2016)年度に全ての教職員に対する「教職員 SD 研修実施方針」(資料 6) を定めた。この方針は学内に周知したほか、公式サイトにも公表している。

大学設置基準第 25 条の 3 に対応して、東京女子大学 FD 委員会規程を定め、同委員会のもとで、本学の教育理念の実現に向けた継続的な教育・研究内容及び教育方法の改善、向上に組織的に取り組んでいる。具体的な取り組みは下記の通りである。

「学生による授業評価アンケート」は平成 15(2003)年度より全学的に統一された方式により、毎年度、原則として全ての開講科目を対象として実施し、集計結果を学生にも開示している。また集計結果は、個々の教員が授業改善に役立てているだけでなく、FD 委員会の指示によって科目運営委員会、学科・専攻、女性学研究所毎に授業評価に関する検討会でアンケート結果を分析し、共有すべき教育上の問題点を明らかにし、具体的な改善策を立案している。検討会の結果は、FD 委員会が報告書として取りまとめ、学内外に開示している。

また、本学では、教職協働で教育改革を進めていくため、FD 研修と SD 研修を合同で行っている。平成 27(2015)、28(2016)年度には、平成 26(2014)年度に選定を受けた大学教育再生加速プログラムに関連したルーブリック研修や PBL 研修の他、事例報告、日本人学生に対する英語での専門科目の授業、障害をもつ学生への合理的配慮、シラバス改善等をテーマとして、年 5~8 回程度開催した。

その他、教員相互の授業参観を、学科・専攻、科目運営委員会等毎に実施し、他の教員の授業方法を学ぶ機会を設ける等、全学的に幅広く、かつ、個々の部署ごとの特殊性に対応できる形で FD 活動に取り組んでいる。

事務職員に対しては、上述した FD・SD 合同研修の他に、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、階層別研修、目的別研修を実施している。平成 28(2016)年度は、自己点検・評価に係る研修、平成 30(2018)年学科改組に係る研修を行い、教育研究活動をサポートするための知識やスキルの向上を図っている。

⑮ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

東京女子大学グランドビジョン第 5 項に、「女性の自己確立と、女性の生涯にわたるキャリア構築を支援する」と掲げており、この実現のために、学士課程教育全体を広義のキャリア教育と位置づけ、正課教育と正課外教育との連動による体系的なキャリア構築支援を全学的に展開している。この取組みを「東京女子大学キャリア・ツリー」という形で表現している(資料 7-1)。

1. 教育課程内の取組

教育課程内では、「生涯にわたるキャリア構築」に必要な資質・能力は、ディプロマ・

ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に定めている。この資質・能力を修得させるために、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に基づいて、全学共通カリキュラムと学科科目を2つの柱とするリベラル・アーツ教育を行っている。

全学共通カリキュラムの「総合教養科目」には、女性学・ジェンダー的視点を涵養し、男女共同参画社会における女性の自立的社会参加の基盤となる知見の修得を目的とする「女性の生きる力」と、生涯にわたって女性の健康を支える知識と自己管理能力の修得を目的とする「女性のウェルネス」の2領域を置いている。「女性の生きる力」領域は、1科目2単位を、「女性のウェルネス」領域は、2科目2単位を必修としている。このほか、「挑戦する知性科目」には、現代社会の問題解決を目指す取組みについて体験的な学びを重ね、自分のキャリアを主体的に構築し続ける力、多文化共生への理解を深め外国語の運用能力を活かし自己発信する力を身につける授業科目を置いている。その中には、現実社会における課題にチームで取り組み、問題解決力やリーダーシップを高めるPBL型の授業も設置している。英語教育においては、第一外国語の2・3・4年次の選択必修科目として、「Business English」「Translation」「Tour Guide Interpreting」等や、国際的な英語力測定試験において期待される英語力を養成するための「TOEIC 講座」「TOEFL 講座」「IELTS 講座」等を設置している。また、「行動的な英語力」を育成し、英語をキャリアにつなげる英語教育プログラムとして、キャリア・イングリッシュ課程を設けている。

心理・コミュニケーション学科の学科科目では、「キャリアと産業組織の心理学」、「コミュニケーションと女性のキャリア」などの科目を設けている。また、本学では、全学年を対象に参加型の少人数教育を重視し実践している。必修の演習や卒業研究により、課題を発見し、課題解決に向けて自ら調べ、自ら考え、自ら表現するという汎用的能力の養成を行っている。（資料7-2）

2. 教育課程外の取組

教育課程外では、キャリア・センターが主体となって、学生が自分の適性や希望に沿った進路を見つけ、社会的・職業的自立の基盤を獲得できるよう、多彩なプログラムを提供している。入学直後からの学年別のガイダンスや各種就職支援講座等の豊富なプログラムを用意するとともに、キャリア・カウンセラーによる個別相談、グループ面談等の支援体制を充実させ、学生一人ひとりが充実した学生生活を送り、将来の自身の姿を描き、希望に沿った進路を選択し、自信を持って社会に巣立てるように支援している。

1年次対象の「キャリアガイダンスⅠ」、2年次対象の「キャリアガイダンスⅡ」は、早い時期から自立のあり方や将来の進路について考える機会を提供するために、全員参加のプログラムとしている。また、全学生を対象とした全学キャリア講座は、毎年前期と後期に1回ずつ行っている。就職活動を支援するプログラムは、就職ガイダンス、業界や職種を研究するセミナー、働くイメージを具体的に描くための企業で働く先輩の話聞く会、企業の広報活動開始と同時に学内企業説明会など、年間を通して多数実施している。また、企業の協力を得て、企業が実際に抱えている課題に対してグループ活動で解決策を提案する「課題解決型ワークショップ」を実施し、チームワークやリー

ダーシップなど社会人基礎力の向上を図るプログラムも実施している。公務員試験対策講座、TOEIC IP テスト、エントリーシート対策講座、SPI 模擬試験など資格取得や就職活動に役立つ講座も行っている。

また、エンパワーメント・センターでは、ワークショップや卒業生との対話会等を開催し、在学生のキャリア意識の向上を図っている。

キリスト教センター内に、ボランティア・ステーションを設け、学生のボランティア活動を支援している。平成 28(2016)年度の事例としては、岩手県大槌町への復興支援、経済的事情を抱える家庭や養育家庭への学習支援等があげられる。さらに 2 月には、海外ボランティアとして、タイ・ワークキャンプを実施し、学生 20 名（引率教員 2 名）が同キャンプに参加した。このキャンプでの活動を通して、本学の建学の精神を、実践を通して学んだ。いずれも、社会が抱える問題や課題を深く理解することに役立っている (<http://office.twcu.ac.jp/univ/facilities/christian/workcamp/index.html>)。

3. 適切な体制の整備

キャリア構築支援における全学での取組みとして、アドバイザー制度を設けている。学生はアドバイザーに履修計画のみならず進路等についても相談し、助言を受けている。アドバイザーはオフィス・アワーを設け、指導にあたっている。

学内組織としては、キャリア推進委員会を置いている。同委員会は、正課教育及び正課外教育におけるキャリア構築支援の基本方針の策定及びキャリア・センターの業務遂行に必要な事項を協議し、決定している。同委員会は、キャリア・センター長を委員長とし、学部長、教育研究支援部長、キャリア・センター課長等が委員となっているため、正課教育と正課外教育の双方の視点から学生を支援する体制を整えている（資料 7-3）。

なお、キャリア・センターには、課長を含め 6 名の事務職員を置き、3 年次から学科・専攻ごとに担当者を決め、きめ細やかな支援を行っている。さらに、キャリア・カウンセラーを置き、平成 29(2017)年度については、平成 29(2017)年 4 月 5 月、平成 30(2018)年 3 月は 3 名、平成 29(2017)年 6 月から平成 30(2018)年 2 月までは 2 名の配置を予定している。キャリア・カウンセラーは、キャリア全般の個別相談、キャリア・センター主催のガイダンスの講師等を務めている。

エンパワーメント・センターは、エンパワーメント・センター長、キャリア・カウンセラー、事務職員で構成している。在学生対象のプログラムはキャリア・センターと共催で行っており、組織間の連携を取っている（資料 7-4）。

本学の建学の精神を端的に示した「犠牲と奉仕(Service and Sacrifice)」の精神にのっとり、ボランティア活動を通じて、建学の精神を具現化することを目的にボランティア・ステーションを設置している。ボランティア・ステーション運営委員会は、学長を委員長とし、キリスト教センター長、学生委員長等が委員となっている。学生の自主的なボランティア活動の支援と助言を行うため、キリスト教センターと学生生活課が本運営委員会の支援をしている（資料 7-5）。

設置の趣旨等を記載した書類 資料一覧

- 資料 東京女子大学グランドビジョン
- 資料 大学として育成する人物像
- 資料 コースナンバリング 全学共通カリキュラム
- 資料 コースナンバリング 心理・コミュニケーション学科科目
- 資料 教員組織の編成方針
- 資料 履修モデル
- 資料 教職員 SD 研修実施方針
- 資料 東京女子大学キャリア・ツリー

東京女子大学グランドビジョン

「東京女子大学グランドビジョン」は、創立 100 周年を迎える東京女子大学が、建学の精神であるキリスト教主義に基づく人格教育により、「専門性をもつ教養人」として 21 世紀の人類・社会に貢献する女性を育てるために、定めたものです。

- ①キリスト教精神に基づき、人類・社会の問題解決に貢献する女性を育てる。
- ②グローバル化・高度情報化した 21 世紀の社会を切り拓き、国際社会で活躍する女性を育てる。
- ③教育内容・教育方法の改革に取り組み、主体的に学ぶことを学び、学び続ける姿勢をもった女性を育てる。
- ④「専門性をもつ教養人」育成の原点である本学のリベラル・アーツ教育を、現代社会に活かす形で充実させる。
- ⑤女性の自己確立と、女性の生涯にわたるキャリア構築を支援する。
- ⑥ステークホルダーとの関係を強化し、社会との結びつきを強め、社会から支持される大学を実現する。
- ⑦学習環境を整備し、現代の高等教育機関にふさわしい施設・設備を確保する。
- ⑧財政基盤を強化し、教育・研究を支える基盤を強める。

大学として育成する人物像

1. 知力（知識）を行動力にするリーディングウーマン
問題解決型教育の展開（PBL の導入）
論理的思考に基づく判断力・決断力・実行力の育成
他者を尊重し協働できる女性の育成
多文化共生社会への理解を深める教育
異なる考えや意見を受け入れる力を育成する教育
2. 国際的な視野をもった地球市民としての女性
グローバルビジョン育成のための教育の推進
英語教育の強化（キャリア・イングリッシュ・アイランド事業等の強化）
英語による授業の展開
留学・海外体験の促進
国際的視野を育む教育環境の整備
3. 専門性と幅広い教養をもった女性
本学独自のリベラル・アーツ教育の一層の推進
体系的・順次性をもった専門教育の推進
幅広い視点から考える力を養う全学共通カリキュラムの充実
文理融合型の教育の展開
専門教育の充実による高度な専門的職業人および研究者の育成
4. キャリアをカスタマイズする女性
生涯にわたって主体的に学び続け自らキャリアを構築する女性
正課教育と正課外教育の連携によるキャリア教育の充実
一人ひとりの生涯にわたるキャリア構築支援
一人ひとりの個性に合ったキャリア支援の充実
5. 21 世紀の高度情報化社会に対応できる女性
高度の ICT リテラシを身につける教育
データ・証拠に基づく理解・課題解決能力の育成

(1)全学共通カリキュラム

ア 総合教養科目

授業科目	授業期間 (15週単位)	毎週 授業時間	単位数	必修・選択必修・選択の別	コースナン バリング	履修年次	備考
女性の生きる力							
女性学・ジェンダーを学ぶ	1	2	2	選択必修	2単位必修	100	1・2・3・4 2クラス
女性とジェンダーの歴史	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
キャリアデザインを描く	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
政治とジェンダー	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
国際協力とジェンダー	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
国際社会と女性の人権	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
現代の家族とジェンダー	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
女性のウェルビーイング	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
女性と福祉	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
女性と表現	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
総合教養演習(女性の生きる力)	1	2	2	選択必修		200	2・3・4
人間と自然科学							
自然科学のあゆみ	1	2	2	選択必修	2単位必修 国際英語学科、人文学科、 国際社会学科、 心理・コミュニケーション学科 の学生は4単位必修、 数理科学科の学生は 2単位必修としこの領域の 必修単位として数えること のできる単位数は4単位 までとする。	100	1・2・3・4
現代の科学と技術	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
暮らしの中の物質	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
エネルギーと人類	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
宇宙の科学	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
地球の科学	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
地球環境の科学	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
自然環境と人間社会	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
生物と環境	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
生命と医療の科学	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
人類の誕生と進化	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
脳の科学	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
遺伝の科学	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
数学の世界	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
情報の数学	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
代数と幾何の基礎	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
代数と幾何の考え方とその応用	1	2	2	選択必修		150	1・2・3・4
微分と積分の基礎	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
微分と積分の考え方とその応用	1	2	2	選択必修		150	1・2・3・4
確率統計の基礎	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
総合教養演習(人間と自然科学)	1	2	2	選択必修	200	2・3・4	
人間自身を知る							
こころの科学	1	2	2	選択必修	2単位必修	100	1・2・3・4 3クラス
こころと社会	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
こどものこころ	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
こころの健康	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
こころの進化	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
思考と論理	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
科学技術と倫理	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
現代人の哲学	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
西洋の哲学のあゆみ	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
東洋の哲学のあゆみ	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
比較思想	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
宗教学	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
日本宗教史	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
宗教と現代社会	1	2	2	選択必修		100	1・2・3・4
総合教養演習(人間自身を知る)	1	2	2	選択必修		200	2・3・4

授業科目	授業期間 (15週単位)	毎週 授業時間	単位数	必修・選択必修・選択の別	コースナン バリング	履修年次	備考
人間の知的生産							
ことばの世界	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	2クラス
日本の文学	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
児童文学	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
比較文学	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
比較文化	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	チェーンレクチャー
宗教音楽	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	2クラス
音楽芸術	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	2クラス
音楽史	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	2クラス
美術論	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	①と②を交互に開講 ①「美術論」「映像論」 ②「舞台芸術論」
映像論	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
舞台芸術論	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
日本文化史	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
日本の伝統芸能	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
世界の地域と民族	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
ヨーロッパの歴史と文化	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
アメリカの歴史と文化	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
ラテンアメリカの歴史と文化	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
アジアの歴史と文化	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
民俗学	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
歴史の見方	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
現代史の諸相	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
アーカイブの世界	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
総合教養演習(人間の知的生産)	1	2	2	選択必修	200	2・3・4	
人間社会の仕組みと問題							
日本国憲法	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	3クラス
公共政策と法	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
市民社会と法	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
国際社会と人権	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
自治と行政	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
社会学と現代社会	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
地域社会論	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
社会保障と社会福祉	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
情報と社会	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
現代社会と教育	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
近現代日本の政治史	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
国際社会と日本	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
平和学	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
ヨーロッパの比較政治	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	交互に開講
アジアの比較政治	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
日本の産業と企業	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
日本経済のしくみ	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
グローバル経済のしくみ	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	交互に開講
アジアの経済事情	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
国際金融と貿易	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
統計のしくみ	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
統計分析を学ぶ	1	2	2	選択必修	150	1・2・3・4	
エネルギー産業と国民生活	1	2	2	選択必修	100	1・2・3・4	
総合教養演習(人間社会の仕組みと問題)	1	2	2	選択必修	200	2・3・4	

授業科目	授業期間 (15週単位)	毎週 授業時間	単位数	必修・選択必修・選択の別	コースナン バリング	履修年次	備考
女性のウェルネス							
女性のウェルネス・身体運動Ⅰ	1	2	1	必修	100	1	27クラス
女性のウェルネス・身体運動Ⅱ	1	2	1	必修	100	1	27クラス
講義							
からだの科学	1	2	2	選択	100	1・2・3・4	
発育と発達	1	2	2	選択	100	1・2・3・4	
栄養と健康	1	2	2	選択	100	1・2・3・4	
現代社会と身体	1	2	2	選択	100	1・2・3・4	
女性の健康科学	1	2	2	選択	100	1・2・3・4	
性と生命(セクソロジー)	1	2	2	選択	100	1・2・3・4	
女性の心身コンディショニング	1	2	2	選択	200	2・3・4	
実習							
スポーツA	1	2	1	選択	200	2・3・4	
スポーツB	1	2	1	選択	200	2・3・4	
スポーツC	1	2	1	選択	200	2・3・4	
スポーツD	1	2	1	選択	200	2・3・4	
フィジカルエクササイズA	1	2	1	選択	200	2・3・4	2クラス
フィジカルエクササイズB	1	2	1	選択	200	2・3・4	2クラス
フィジカルエクササイズC	1	2	1	選択	200	2・3・4	
身体表現A	1	2	1	選択	200	2・3・4	「身体表現C」と交互に開講
身体表現B	1	2	1	選択	200	2・3・4	
身体表現C	1	2	1	選択	200	2・3・4	「身体表現A」と交互に開講

イ 挑戦する知性科目

授業科目コード	授業科目	授業期間 (15週単位)	毎週 授業時間	単位数	必修・選択必修・選択の別	履修年次	コースナンバリング	備考
	ケンブリッジ教養講座	2	2	2	選択	2・3・4	250	本学の実施する海外研修の成果により単位認定 通年科目
	PBLキャリア構築講座	1	2	2	選択	2・3・4	200	
	英語特別プログラム	2	2	2	選択	2・3・4	250	通年科目 4クラス
<以下の演習6科目はキャリア・イングリッシュ課程登録者のみ履修できる>								
	Critical Thinking演習*	1	2	2	選択	2	200	2クラス
	発話・パフォーマンス演習*	1	2	2	選択	2	200	2クラス
	討論演習1*	1	2	2	選択	3	300	2クラス
	討論演習2*	1	2	2	選択	3	350	2クラス
	Total Presentation演習1*	1	2	2	選択	4	400	3クラス
	Total Presentation演習2*	1	2	2	選択	4	450	3クラス

注 *印の科目を履修するには、所定のキャリア・イングリッシュ課程登録を行っていないといけない。

ウ キリスト教学科目

授業科目コード	授業科目	授業期間 (15週単位)	毎週 授業時間	単位数	必修・選択必修・選択の別	履修年次	コースナン バリング	備 考
	キリスト教学Ⅰ(入門Ⅰ)	1	2	2	必修	1	100	10クラス
	キリスト教学Ⅰ(入門Ⅱ)	1	2	2	必修	1	100	10クラス
	キリスト教学Ⅱ(旧約聖書の世界)	1	2	2	選択必修	2・3・4	200	
	キリスト教学Ⅱ(新約聖書の世界)	1	2	2	選択必修	2・3・4	200	
	キリスト教学Ⅱ(キリスト教と女性)	1	2	2	選択必修	2・3・4	200	
	キリスト教学Ⅱ(キリスト教の歴史)	1	2	2	選択必修	2・3・4	200	
	キリスト教学Ⅱ(日本のキリスト教)	1	2	2	選択必修	2・3・4	200	
	キリスト教学Ⅱ(世界のキリスト教)	1	2	2	選択必修	2・3・4	200	
	キリスト教学Ⅱ(キリスト教と社会)	1	2	2	選択必修	2単位必修 2・3・4	200	
	キリスト教学Ⅱ(キリスト教と現代の宗教事情)	1	2	2	選択必修	2・3・4	200	
	キリスト教学Ⅱ(キリスト教と倫理)	1	2	2	選択必修	2・3・4	200	
	キリスト教学Ⅱ(キリスト教の思想)	1	2	2	選択必修	2・3・4	200	
	キリスト教学Ⅱ(キリスト教と芸術)	1	2	2	選択必修	2・3・4	200	
	キリスト教学Ⅱ(キリスト教と文学)	1	2	2	選択必修	2・3・4	200	
	キリスト教学Ⅲ(聖書と文化)	1	2	2	選択	2・3・4	250	} 1クラス
	キリスト教学Ⅲ(キリスト教の歴史と文化)	1	2	2	選択	2・3・4	250	
	キリスト教学Ⅲ(キリスト教の思想と文化)	1	2	2	選択	2・3・4	250	

注1 「キリスト教学Ⅲ」の各科目は、「キリスト教学Ⅰ(入門Ⅰ)」、「キリスト教学Ⅰ(入門Ⅱ)」及び「キリスト教学Ⅱ」を履修した者が履修することができる。

2 必修単位を超えて修得した「キリスト教学Ⅱ」の単位は、自由選択科目の単位となる。

工 外 国 語 科 目

○第 一 外 国 語(英語)

授業科目コード	授業科目	授業期間 (15週単位)	毎週 授業時間	単位数	必修・選択必修・選択の別	履修年次	コースナン バリング	備 考
	Communication Skills A	1	2	1	必修	1	100	40クラス
	Communication Skills B	1	2	1	必修	1	150	40クラス
	Reading I A	1	2	1	必修	1	100	40クラス
	Reading I B	1	2	1	必修	1	150	40クラス
	Discussion Skills A	1	2	1	必修	2	200	40クラス
	Discussion Skills B	1	2	1	必修*	2	250	33クラス
	Reading II A	1	2	1	必修	2	200	40クラス
	Reading II B	1	2	1	必修*	2	250	33クラス
	Speaking Skills A	1	2	1	選択必修	2・3・4	200	5クラス
	Speaking Skills B	1	2	1	選択必修	2・3・4	250	5クラス
	Listening and Presentation A	1	2	1	選択必修	2・3・4	200	5クラス
	Listening and Presentation B	1	2	1	選択必修	2・3・4	250	5クラス
	Critical Reading and Discussion A	1	2	1	選択必修	2・3・4	200	5クラス
	Critical Reading and Discussion B	1	2	1	選択必修	2・3・4	250	5クラス
	Journalistic English A	1	2	1	選択必修	2・3・4	200	4クラス
	Journalistic English B	1	2	1	選択必修	2・3・4	250	4クラス
	Academic Writing A	1	2	1	選択必修	2・3・4	200	3クラス
	Academic Writing B	1	2	1	選択必修	2・3・4	250	3クラス
	English through Drama A	1	2	1	選択必修	2・3・4	200	
	English through Drama B	1	2	1	選択必修	2・3・4	250	
English for Specific Purposes								
	Business English A	1	2	1	選択必修	2・3・4	250	
	Business English B	1	2	1	選択必修	2・3・4	250	
	Translation A	1	2	1	選択必修	2・3・4	250	3クラス
	Translation B	1	2	1	選択必修	2・3・4	250	3クラス
	Tour Guide Interpreting A	1	2	1	選択必修	2・3・4	250	
	Tour Guide Interpreting B	1	2	1	選択必修	2・3・4	250	
English Proficiency Test Classes								
	TOEIC講座	1	2	1	選択必修	1・2・3・4	150	6クラス
	TOEFL講座	1	2	1	選択必修	1・2・3・4	150	4クラス
	IELTS講座	1	2	1	選択必修	1・2・3・4	150	4クラス
	Basic Communicative English	1	4	2	選択	1	100	週2コマ2クラス
	Intensive English	2	2	2	選択	1・2・3・4	200	本学の実施する海外語学研修(英語)及び本学があらかじめ認めた外国の大学が実施する語学研修(英語)の成果により単位認定 通年科目

- 注1 2年次、3年次に「Reading II A」を履修するには、「Reading I A」又は「Reading I B」を1単位修得していなければならない。
- 2 2年次、3年次に「Reading II B」を履修するには、「Reading I A」又は「Reading I B」を1単位修得していなければならない。
- 3 国際英語学科の学生は、「*」印の「Discussion Skills B」「Reading II B」の2科目計2単位の履修を免除する。
- 4 「Basic Communicative English」は、入学時に実施するプレイスメントテストの結果に基づき、指示のあった者を履修対象とする。
- 5 本学に入学する前に在学した大学又は短期大学において修得した単位の認定により第一外国語の1年次必修4単位をすべて認定された者は、「Discussion Skills A」、「Discussion Skills B」、「Reading II A」及び「Reading II B」の4科目計4単位を1年次に履修しなければならない。
- 6 大学以外の教育施設等における知識及び技能審査(実用英語技能検定、TOEFL、TOEIC、IELTS)の成果に係る学修により第一外国語の必修8単位をすべて認定された者は、履修年次が2年次以上の選択必修科目を在籍する年次にかかわらず履修することができる。
- 7 外国人正規課程留学生は、上記の定めによらず、外国人留学生特別科目の「日本語 I (入門)」及び「日本語 II (応用)」の2科目計8単位を第一外国語の必修8単位とする。

○第二外国語(ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・韓国語)

授業科目	授業期間 (15週単位)	毎週 授業時間	単位数	必修・選択必修・選択の別	履修年次	コースナン バリング	備考
ドイツ語初級	2	4	4	選択必修	1	100	週2コマ 6クラス 通年科目
フランス語初級	2	4	4	選択必修	1	100	週2コマ 7クラス 通年科目
スペイン語初級	2	4	4	選択必修	1	100	週2コマ 11クラス 通年科目
中国語初級	2	4	4	選択必修	1	100	週2コマ 12クラス 通年科目
韓国語初級	2	4	4	選択必修	1	100	週2コマ 8クラス 通年科目
ドイツ語(読解)A	1	2	1	選択	2・3・4	200	前期・後期
ドイツ語(読解)B	1	2	1	選択	2・3・4	250	前期・後期
ドイツ語(作文と文法)	1	2	1	選択	2・3・4	200	前期・後期
ドイツ語(会話)	1	2	1	選択	2・3・4	200	前期・後期
フランス語(読解)A	1	2	1	選択	2・3・4	200	前期・後期
フランス語(読解)B	1	2	1	選択	2・3・4	250	前期又は後期
フランス語(作文と文法)	1	2	1	選択	2・3・4	200	前期・後期
フランス語(会話)	1	2	1	選択	2・3・4	200	前期・後期
スペイン語(読解)A	1	2	1	選択	2・3・4	200	前期・後期
スペイン語(読解)B	1	2	1	選択	2・3・4	250	前期・後期
スペイン語(作文と文法)	1	2	1	選択	2・3・4	200	前期・後期
スペイン語(会話)	1	2	1	選択	2・3・4	200	前期・後期
中国語(読解)A	1	2	1	選択	2・3・4	200	前期・後期
中国語(読解)B	1	2	1	選択	2・3・4	250	前期・後期
中国語(作文と文法)	1	2	1	選択	2・3・4	200	前期・後期
中国語(会話)	1	2	1	選択	2・3・4	200	前期・後期
韓国語(読解)A	1	2	1	選択	2・3・4	200	前期又は後期
韓国語(読解)B	1	2	1	選択	2・3・4	250	前期又は後期
韓国語(作文と文法)	1	2	1	選択	2・3・4	200	前期・後期
韓国語(会話)	1	2	1	選択	2・3・4	200	前期・後期

- E1 ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語の各読解A、読解B、作文と文法、会話を履修するには、同じ言語の初級4単位を修得していなければならない。
- 2 ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語の各読解A、読解B、作文と文法、会話は、同一授業科目を重ねて履修することができる。
- 3 ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語の各初級は、第二外国語の必修科目として履修する以外に、第三、第四、第五、第六の外国語として2年次から履修することができる。ただし、本学入学時に第二外国語の必修4単位を認定された者は、1年次から履修することができる。
- 4 本学に入学する前に在学した大学又は短期大学において修得した単位の認定により第二外国語の必修4単位を認定された者は、認定された言語の読解A、読解B、作文と文法、会話を在籍する年次にかかわらず履修することができる。
- 5 大学以外の教育施設等における知識及び技能審査(ドイツ語技能検定試験、実用フランス語技能検定試験、スペイン語技能検定試験、中国語検定試験、韓国語能力試験、「ハングル」能力検定試験)の成果に係る学修により第二外国語の初級4単位を認定された者は、認定された言語の読解A、読解B、作文と文法、会話を在籍する年次にかかわらず履修することができる。
- 6 第二外国語の必修科目として履修する以外の言語について一定の条件を満たすと認められた者は、注1に定める読解A、読解B、作文と文法、会話の履修条件及び在籍する年次にかかわらず、当該言語の読解A、読解B、作文と文法、会話を履修することができる。
- 7 外国人正規課程留学生は、上記の定めによらず、次の科目から指定するいずれか5単位を第二外国語の必修とする。
外国人留学生特別科目の「英語初級Ⅰ」、「英語初級Ⅱ」及び第一外国語の必修又は選択必修科目

○ギリシア語・ラテン語

授業科目コード	授業科目	授業期間 (15週単位)	毎週 授業時間	単位数	必修・選択必修・選択の別	履修年次	コースナンバリング	備考
	ギリシア語初級1	1	2	1	選択	1・2・3・4	100	
	ギリシア語初級2	1	2	1	選択	1・2・3・4	150	
	ラテン語初級1	1	2	1	選択	1・2・3・4	100	
	ラテン語初級2	1	2	1	選択	1・2・3・4	150	

主1 「ギリシア語初級2」を履修するには、「ギリシア語初級1」1単位を修得していなければならない。

2 「ラテン語初級2」を履修するには、「ラテン語初級1」1単位を修得していなければならない。

オ 日本語科目

授業科目コード	授業科目	授業期間 (15週単位)	毎週 授業時間	単位数	必修・選択必修・選択の別	履修年次	コースナンバリング	備考
	日本語表現法	1	2	2	選択	1・2限定	100	10クラス

カ 情報処理科目

授業科目コード	授業科目	授業期間 (15週単位)	毎週 授業時間	単位数	必修・選択必修・選択の別	履修年次	コースナンバリング	備考
	情報処理技法(リテラシ) I	1	2	2	必修	1	100	27クラス
	情報処理技法(リテラシ) II	1	2	2	必修	1	150	27クラス
	情報処理技法(Cプログラミング) I	1	2	2	選択	1・2・3・4	150	2クラス
	情報処理技法(Cプログラミング) II	1	2	2	選択	2・3・4	200	
	情報処理技法(JAVAプログラミング) I	1	2	2	選択	1・2・3・4	150	2クラス
	情報処理技法(JAVAプログラミング) II	1	2	2	選択	2・3・4	200	
	情報処理技法(マルチメディアと表現) I	1	2	2	選択	1・2・3・4	150	3クラス
	情報処理技法(マルチメディアと表現) II	1	2	2	選択	2・3・4	200	2クラス
	情報処理技法(UNIXリテラシ)	1	2	2	選択	1・2・3・4	150	
	情報処理技法(統計解析)	1	2	2	選択	2・3・4	200	3クラス
	情報処理技法(ネットワークとセキュリティ)	1	2	2	選択	2・3・4	200	
	情報処理技法(Webでの情報表現)	1	2	2	選択	2・3・4	200	
	コンピュータ・サイエンス I	1	2	2	選択	1・2・3・4	100	
	コンピュータ・サイエンス II	1	2	2	選択	1・2・3・4	150	

- 注1 情報処理科目の選択科目を履修するには、「情報処理技法(リテラシ) I」2単位を履修していなければならない。ただし、「コンピュータ・サイエンス I」及び「コンピュータ・サイエンス II」は、当該履修条件にかかわらず履修することができる。
- 2 本学に入学する前に在学した大学又は短期大学において修得した単位の認定により「情報処理技法(リテラシ) I」2単位を認定された者は、情報処理科目の選択科目を在籍する年次にかかわらず履修することができる。

(2)心理・コミュニケーション学科の学科科目

授業科目	授業期間 (15週単位)	毎週 授業時間	単位数	必修・選択必修・選択の別	学科共通/専攻の区分	専攻指定	履修年次	コースナンバリング	備考
入門									
心理・コミュニケーション概論	1	2	2	必修	(心理・コミュニケーション学科)	心コ	1	100	
心理学概論	1	2	2	必修	(心理・コミュニケーション学科)	心コ	1	100	
コミュニケーション概論I	1	2	2	必修	(心理・コミュニケーション学科)	心コ	1	100	
コミュニケーション概論II(メディア)	1	2	2	選択	コミュニケーション専攻は必修	コミュニケーション	心コ	1	150
コミュニケーション概論II(情報デザイン)	1	2	2	選択		コミュニケーション	心コ	1	150
コミュニケーション概論II(多文化)	1	2	2	選択		コミュニケーション	心コ	1	150
基盤講義									
基礎心理学概論	1	2	2	選択	心理学専攻は必修	心理学	心コ	1	150
社会心理学概論	1	2	2	選択		心理学	心コ	1	150
発達心理学概論	1	2	2	選択		心理学	心コ	2	200
臨床心理学概論	1	2	2	選択	心理学専攻は必修	心理学	心コ	2	200
心理学統計法1	1	2	2	選択		心理学	心コ	1	150
心理学統計法2	1	2	2	選択	心理学専攻は必修	心理学	心コ	2	200
コミュニケーション統計法1	1	2	2	選択		コミュニケーション	心コ	2	200
コミュニケーション統計法2	1	2	2	選択	コミュニケーション専攻は必修	コミュニケーション	心コ	2	250
先端トピック概論(コミュニケーション)A	1	2	2	選択		コミュニケーション		1	100
先端トピック概論(コミュニケーション)B	1	2	2	選択	コミュニケーション		1	100	
特殊講義									
思考心理学	1	2	2	選択	心理学専攻は2単位必修	心理学	2・3・4	250	交互に開講
知覚心理学	1	2	2	選択		心理学	2・3・4	250	
生理心理学	1	2	2	選択		心理学	2・3・4	250	
認知心理学	1	2	2	選択	心理学専攻は2単位必修	心理学	2・3・4	250	交互に開講
社会心理学(個人内過程)	1	2	2	選択		心理学	2・3・4	250	
社会心理学(対人過程)	1	2	2	選択		心理学	2・3・4	250	
社会心理学(マクロ・集団)	1	2	2	選択	心理学専攻は2単位必修	心理学	2・3・4	250	交互に開講
社会心理学(応用)	1	2	2	選択		心理学	2・3・4	250	
発達心理学(情動発達)	1	2	2	選択		心理学	2・3・4	250	
発達心理学(社会発達)	1	2	2	選択	心理学専攻は2単位必修	心理学	2・3・4	250	交互に開講
発達心理学(認知発達)	1	2	2	選択		心理学	2・3・4	250	
教育心理学	1	2	2	選択		心理学	2・3・4	250	
家族心理学	1	2	2	選択	心理学専攻は2単位必修	心理学	2・3・4	250	交互に開講
キャリアと産業組織の心理学	1	2	2	選択		心理学	2・3・4	250	
心理療法論	1	2	2	選択		心理学	2・3・4	250	
学校臨床心理学	1	2	2	選択	心理学専攻は2単位必修	心理学	2・3・4	250	交互に開講
精神保健学	1	2	2	選択		心理学	2・3・4	250	
精神医学	1	2	2	選択		心理学	2・3・4	250	
心理学特論	1	2	2	選択	心理学	2・3・4	250		
メディア心理学	1	2	2	選択	コミュニケーション専攻は2単位必修	コミュニケーション	2・3・4	200	
コミュニケーション心理学A	1	2	2	選択		コミュニケーション	2・3・4	200	
コミュニケーション心理学B	1	2	2	選択		コミュニケーション	2・3・4	200	
メディアとことば	1	2	2	選択	コミュニケーション専攻は2単位必修	コミュニケーション	2・3・4	200	
メディア社会論	1	2	2	選択		コミュニケーション	2・3・4	200	
メディア文化論	1	2	2	選択		コミュニケーション	2・3・4	200	
メディア産業論	1	2	2	選択	コミュニケーション専攻は2単位必修	コミュニケーション	2・3・4	200	
メディア史	1	2	2	選択		コミュニケーション	2・3・4	200	
ジャーナリズムと現代社会	1	2	2	選択		コミュニケーション	2・3・4	200	
広告と消費者心理	1	2	2	選択	コミュニケーション	2・3・4	200		
ジェンダーとメディア	1	2	2	選択	コミュニケーション	2・3・4	200		
グローバルメディア	1	2	2	選択	コミュニケーション	2・3・4	200		
デザイン思考 I	1	2	2	選択	コミュニケーション	2・3・4	200		
デザイン思考 II	1	2	2	選択	コミュニケーション	2・3・4	250		
ユニバーサルデザイン(人間中心設計)	1	2	2	選択	コミュニケーション	2・3・4	200		
ユニバーサルデザイン(心理物理)	1	2	2	選択	コミュニケーション	2・3・4	200		
デザイン心理(視覚)	1	2	2	選択	コミュニケーション	2・3・4	200		
デザイン心理(聴覚)	1	2	2	選択	コミュニケーション	2・3・4	200		
ICTリテラシー I	1	2	2	選択	コミュニケーション専攻は2単位必修	コミュニケーション	2・3・4	200	
ICTリテラシー II	1	2	2	選択		コミュニケーション	2・3・4	250	
インターネット・バイ・デザインI	1	2	2	選択	コミュニケーション	2・3・4	200		
インターネット・バイ・デザインII	1	2	2	選択	コミュニケーション	2・3・4	250		
Webデザイン	1	2	2	選択	コミュニケーション	2・3・4	200		
SNSコミュニティデザイン	1	2	2	選択	*	コミュニケーション	2・3・4	200	
ユーザニーズ分析	1	2	2	選択		コミュニケーション	2・3・4	200	
コミュニケーションと女性のキャリア	1	2	2	選択	コミュニケーション	2・3・4	200		
多文化コミュニケーション	1	2	2	選択	コミュニケーション	2・3・4	200		
対人コミュニケーション(家族)	1	2	2	選択	コミュニケーション	2・3・4	200		
対人コミュニケーション(社会)	1	2	2	選択	コミュニケーション	2・3・4	200		
対人コミュニケーション(ジェンダー)	1	2	2	選択	コミュニケーション	2・3・4	200		
ダイバーシティとコミュニケーション	1	2	2	選択	コミュニケーション	2・3・4	200		
文化心理学(文化と自己)	1	2	2	選択	コミュニケーション	2・3・4	200		
文化心理学(文化と認知)	1	2	2	選択	コミュニケーション	2・3・4	200		
文化心理学(グローバル社会)	1	2	2	選択	コミュニケーション	2・3・4	200		

授業科目	授業期間 (15週単位)	毎週 授業時間	単位数	必修・選択必修・選択の別	学科共通/専攻の区分	専攻指定	履修年次	コースナンバリング	備考	
多文化教育	1	2	2	選択	コミュニケーション専攻は	コミュニケーション	2・3・4	200		
日本語教育研究概論Ⅰ	1	2	2	選択	2単位必修	コミュニケーション	2	200		
日本語教育研究概論Ⅱ	1	2	2	選択		コミュニケーション	2	250		
日本語教育研究Ⅰ	1	2	2	選択		コミュニケーション	3	300		
日本語教育研究Ⅱ	1	2	2	選択		コミュニケーション	3	350		
多文化コミュニケーション・デザイン	1	2	2	選択		コミュニケーション	2・3・4	200		
ことばと文化	1	2	2	選択		コミュニケーション	2・3・4	200		
言語コミュニケーション能力の発達	1	2	2	選択		コミュニケーション	2・3・4	200		
言語の多様性と普遍性A	1	2	2	選択		コミュニケーション	2・3・4	200	国際英語専攻と共有	
言語の多様性と普遍性B	1	2	2	選択		コミュニケーション	2・3・4	200	国際英語専攻と共有	
第二言語習得基礎論A	1	2	2	選択		コミュニケーション	2	200	国際英語専攻と共有	
第二言語習得基礎論B	1	2	2	選択		コミュニケーション	2	200	国際英語専攻と共有	
社会言語学A	1	2	2	選択		コミュニケーション	2・3・4	200	日本文学専攻と共有	
社会言語学B	1	2	2	選択		コミュニケーション	2・3・4	200	日本文学専攻と共有	
日本語学(表記・語彙)A	1	2	2	選択		コミュニケーション	2・3・4	200	日本文学専攻と共有	
日本語学(表記・語彙)B	1	2	2	選択		コミュニケーション	2・3・4	200	日本文学専攻と共有	
日本語学(文法・談話)A	1	2	2	選択		コミュニケーション	2・3・4	200	日本文学専攻と共有	
日本語学(文法・談話)B	1	2	2	選択		コミュニケーション	2・3・4	200	日本文学専攻と共有	
基盤演習										
1年次演習(心理学)	1	2	2	選択	心理学専攻は必修	心理学	心	1	100	6クラス
2年次演習(心理学)A	1	2	2	選択		心理学	心	2	200	6クラス
2年次演習(心理学)B	1	2	2	選択		心理学	心	2	250	6クラス
心理学実験入門	1	2	2	選択		心理学	心	1	100	
1年次演習(コミュニケーション)	1	2	2	選択	コミュニケーション専攻は必修	コミュニケーション	コ	1	100	5クラス
2年次演習(コミュニケーション)	1	2	2	選択		コミュニケーション	コ	2	200	6クラス
コミュニケーション研究法入門	1	4	4	選択		コミュニケーション	コ	2	200	週2コマ 5クラス
アプリ作成入門	1	2	2	選択		コミュニケーション	コ	1	150	
WebプログラミングⅠ	1	2	2	選択	*	コミュニケーション	コ	2	200	
WebプログラミングⅡ	1	2	2	選択		コミュニケーション	コ	2	250	
オーラルコミュニケーションスキルズ	1	2	2	選択		コミュニケーション		2・3	200	
言語情報処理Ⅰ	1	2	2	選択		コミュニケーション		2・3	200	日本文学専攻と共有
言語情報処理Ⅱ	1	2	2	選択		コミュニケーション		2・3	250	日本文学専攻と共有
発展演習										
3年次演習(心理学)	1	2	2	選択	心理学専攻は必修	心理学	心	3	300	9クラス
4年次演習(心理学)A	1	2	2	選択		心理学	心	4	400	9クラス
4年次演習(心理学)B	1	2	2	選択		心理学	心	4	450	9クラス
心理学特殊演習(先端)	1	2	2	選択		心理学	心	3・4	350	
心理学特殊演習(応用)	1	2	2	選択		心理学	心	3・4	350	
3年次演習(コミュニケーション)Ⅰ	1	2	2	選択	コミュニケーション専攻は必修	コミュニケーション	コ	3	300	13クラス
3年次演習(コミュニケーション)Ⅱ	1	2	2	選択		コミュニケーション	コ	3	350	13クラス
4年次演習(コミュニケーション)Ⅰ	1	2	2	選択		コミュニケーション	コ	4	400	13クラス
4年次演習(コミュニケーション)Ⅱ	1	2	2	選択		コミュニケーション	コ	4	450	13クラス
コミュニケーション研究法実習(実験法)	1	2	2	選択	コミュニケーション専攻は2単位必修	コミュニケーション	コ	3	300	
コミュニケーション研究法実習(内容分析)	1	2	2	選択		コミュニケーション	コ	3	300	
コミュニケーション研究法実習(質的研究)	1	2	2	選択		コミュニケーション	コ	3	300	
社会調査法実習(質問紙調査)Ⅰ	1	2	2	選択	コミュニケーション専攻は2単位必修	コミュニケーション	コ	3	300	
社会調査法実習(質問紙調査)Ⅱ	1	2	2	選択		コミュニケーション	コ	3	350	
多変量解析	1	2	2	選択		コミュニケーション	コ	3	350	2クラス
実験・実習										
心理検査実習Ⅰ	1	2	1	選択	心理学専攻は必修	心理学	心	1	150	
心理検査実習Ⅱ	1	2	1	選択		心理学	心	2	200	2クラス
心理学実験演習ⅠA	1	2	1	選択		心理学	心	2	200	2クラス
心理学実験演習ⅠB	1	4	2	選択		心理学	心	2	250	週2コマ 2クラス
心理学実験演習Ⅱ(実験法)	1	2	1	選択	心理学専攻は1単位必修	心理学	心	3	300	
心理学実験演習Ⅱ(調査法)	1	2	1	選択		心理学	心	3	300	
心理学実験演習Ⅱ(質的アプローチ)	1	2	1	選択		心理学	心	3	300	
心理学実験演習Ⅲ(実験法)	1	2	1	選択		心理学	心	3・4	350	
心理学特殊実験演習	1	4	2	選択	心理学専攻は必修	心理学	心	3	350	週2コマ 9クラス
日本語教育実習	2	2	4	選択		コミュニケーション		4	400	通年科目
卒業論文										
卒業論文	2		8	必修	(心理・コミュニケーション学科)	心コ	4	490	通年科目	

注 1 1年次の自学科科目の履修は、20単位を上限とする。

2 「心理学統計法2」を履修するには、「心理学統計法1」2単位を修得していなければならない。

3 「コミュニケーション統計法2」を履修するには、「コミュニケーション統計法1」2単位を修得していなければならない。

4 コミュニケーション専攻の学生は、特殊講義及び基盤演習の「*」印の範囲において10単位を修得しなければならない。ただし、必ず特殊講義の選択必修3科目計6単位を含めなければならない。

5 「日本語教育研究Ⅰ」及び「日本語教育研究Ⅱ」を履修するには、次の2科目計4単位を修得していなければならない。

「第二言語習得基礎論A」又は「第二言語習得基礎論B」のうち1科目2単位
「日本語教育研究概論Ⅰ」又は「日本語教育研究概論Ⅱ」のうち1科目2単位

6 「日本語教育実習」を履修するには、次の5科目計10単位を修得していなければならない。

「第二言語習得基礎論A」「第二言語習得基礎論B」「日本語教育研究概論Ⅰ」「日本語教育研究概論Ⅱ」の4科目計8単位
「日本語教育研究Ⅰ」又は「日本語教育研究Ⅱ」のうち1科目2単位

7 心理・コミュニケーション学科の学生は、自学科科目のうち必修科目、選択必修科目、選択科目合わせて64単位を修得しなければならない。

8 心理・コミュニケーション学科の学生が4年次に進級するには、前年度末までに、卒業に必要な単位数130単位のうち所定の科目の単位を含む86単位を修得しなければならない。

教員組織の編制方針

現代教養学部

1. 文部科学省令大学設置基準を満たし、教育が適正に行われる教員数を配置する。
2. 教員の募集・任免・昇任は、公平かつ透明性を保つ。
3. 年齢構成の均衡を図る。
4. 女性のキャリアを支援し、同等の能力を有する場合は女性の教員を積極的に登用する。

心理・コミュニケーション学科 心理学専攻

現代に生きる人間のあり方を考究・提言できる人材養成

基礎心理学・社会心理学を中心に学び、科学的視点をもとに社会への貢献を目指す

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		計	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位		
全学共通カリキュラム リベラル・スタディーズ アカデミック・スキル科目	総合教養科目	情報の数学	2	脳の科学	2	ことばの世界	2		18	
				こころの進化	2	比較文化	2			
				民俗学	2	遺伝の科学	2			
				社会学と現代社会	2	女性と表現	2			
		女性のウェルネス・身体運動 I	1						2	
		女性のウェルネス・身体運動 II	1							
	挑戦する知性科目			PBLキャリア構築講座	2				2	
	キリスト教学科目	キリスト教学 I (入門 I)	2	キリスト教学II(キリスト教と社会)	2				6	
		キリスト教学 I (入門 II)	2							
	外国語科目	Communication Skills A	1	Discussion Skills A	1	Critical Reading and Discussion A	1		13	
	Communication Skills B	1	Discussion Skills B	1						
	Reading I A	1	Reading II A	1						
	Reading I B	1	Reading II B	1						
	フランス語初級	4								
日本語科目	日本語表現法	2						2		
情報処理科目	情報処理技法(リテラシ) I	2						4		
	情報処理技法(リテラシ) II	2								
学科科目	入門	心理・コミュニケーション概論	2						6	
		心理学概論	2							
		コミュニケーション概論 I	2							
	基盤講義	基礎心理学概論	2	発達心理学概論	2				12	
		社会心理学概論	2	臨床心理学概論	2					
		心理学統計法1	2	心理学統計法2	2					
	特殊講義			知覚心理学	2	思考心理学	2	社会心理学(マクロ・集団)	2	32
				認知心理学	2	生理心理学	2	教育心理学	2	
				社会心理学(個人内過程)	2	社会心理学(対人過程)	2	精神保健学	2	
				キャリアと産業組織の心理学	2	社会心理学(応用)	2	文化心理学(文化と認知)	2	
						発達心理学(認知発達)	2			
						発達心理学(社会発達)	2			
						心理療法論	2			
					家族心理学	2				
基盤演習	1年次演習(心理学)	2	2年次演習(心理学)A	2				8		
	心理学実験入門	2	2年次演習(心理学)B	2						
発展演習					3年次演習(心理学)	2	4年次演習(心理学)A	2	8	
					心理学特殊演習(先端)	2	4年次演習(心理学)B	2		
実験・実習	心理検査実習 I	1	心理検査実習 II	1	心理学実験演習 II (実験法)	1	心理学実験演習 III (実験法)	1	9	
			心理学実験演習 I A	1	心理学特殊実験演習	2				
			心理学実験演習 I B	2						
卒業論文							卒業論文	8	8	
単位数	39		38		32		21		130	

心理・コミュニケーション学科 心理学専攻

現代に生きる人間のあり方を考究・提言できる人材養成

人間発達の道筋と臨床心理学を中心に学び、大学院に進学して臨床心理士を目指す

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		計	
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位		
全学共通カリキュラム	リベラル・スタディーズ	総合教養科目	数学の世界	2	現代の家族とジェンダー	2	女性と福祉	2	18	
					こころの進化	2	生命と医療の科学	2		
					現代人の哲学	2	総合教養演習(人間自身を知る)	2		
					児童文学	2				
					市民社会と法	2				
				女性のウェルネス・身体運動 I	1				2	
				女性のウェルネス・身体運動 II	1					
		挑戦する知性科目							0	
		キリスト教学科目	キリスト教学 I (入門 I)	2	キリスト教学 II (キリスト教と芸術)	2			6	
			キリスト教学 I (入門 II)	2						
アカデミック・スキル科目	外国語科目	Communication Skills A	1	Discussion Skills A	1	Critical Reading and Discussion A	1	14		
		Communication Skills B	1	Discussion Skills B	1					
		Reading I A	1	Reading II A	1	Critical Reading and Discussion B	1			
		Reading I B	1	Reading II B	1					
	ドイツ語初級	4								
日本語科目	日本語表現法	2					2			
情報処理科目	情報処理技法(リテラン) I	2					4			
		情報処理技法(リテラン) II	2							
学科科目	入門	心理・コミュニケーション概論	2					6		
		心理学概論	2							
		コミュニケーション概論 I	2							
	基盤講義	基礎心理学概論	2	発達心理学概論	2			12		
		社会心理学概論	2	臨床心理学概論	2					
		心理学統計法1	2	心理学統計法2	2					
	特殊講義			発達心理学(情動発達)	2	思考心理学	2	認知心理学	2	34
				学校臨床心理学	2	社会心理学(対人過程)	2	社会心理学(マクロ・集団)	2	
				キャリアと産業組織の心理学	2	発達心理学(認知発達)	2	教育心理学	2	
				精神保健学	2	発達心理学(社会発達)	2	心理学特論	2	
						家族心理学	2	言語コミュニケーション能力の発達	2	
						心理療法論	2			
						精神医学	2			
				文化心理学(文化と自己)	2					
基盤演習	1年次演習(心理学)	2	2年次演習(心理学)A	2				8		
	心理学実験入門	2	2年次演習(心理学)B	2						
発展演習					3年次演習(心理学)	2	4年次演習(心理学)A	2	8	
					心理学特殊演習(応用)	2	4年次演習(心理学)B	2		
実験・実習	心理検査実習 I	1	心理検査実習 II	1	心理学実験演習 II (質的アプローチ)	1		8		
			心理学実験演習 I A	1	心理学特殊実験演習	2				
			心理学実験演習 I B	2						
卒業論文						卒業論文	8	8		
単位数	39		38		31		22		130	

心理・コミュニケーション学科 コミュニケーション専攻
 現代に生きる人間のあり方を考究・提言できる人材養成
 メディア・コミュニケーションを中心に学び、広告・広報関係の専門家を目指す

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		計		
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位			
全学共通カリキュラム	リベラル・スタディーズ	総合教養科目	こころと社会	2	自然環境と人間社会	2	女性と表現	2	現代の科学と技術	2	16
					社会学と現代社会	2	映像論	2			
					統計のしくみ	2	統計分析を学ぶ	2			
											2
		女性のウェルネス・身体運動 I	1								
		女性のウェルネス・身体運動 II	1								
	挑戦する知性科目										0
	キリスト教学科目	キリスト教学 I (入門 I)	2	キリスト教学 II (キリスト教と女性)	2						6
		キリスト教学 I (入門 II)	2								
	アカデミック・スキル科目	外国語科目	Communication Skills A	1	Discussion Skills A	1	Journalistic English A	1			14
Communication Skills B			1	Discussion Skills B	1	Journalistic English B	1				
Reading I A			1	Reading II A	1						
Reading I B			1	Reading II B	1						
フランス語初級			4								
日本語科目	日本語表現法	2								2	
情報処理科目	情報処理技法 (リテラシ) I	2								4	
	情報処理技法 (リテラシ) II	2									
学科科目	入門	心理・コミュニケーション概論	2							12	
		心理学概論	2								
		コミュニケーション概論 I	2								
		コミュニケーション概論 II (多文化)	2								
		コミュニケーション概論 II (メディア)	2								
		コミュニケーション概論 II (情報デザイン)	2								
	基盤講義	先端トピック概論 (コミュニケーション) A	2	コミュニケーション統計法1	2					6	
				コミュニケーション統計法2	2						
	特殊講義			コミュニケーション心理学A	2	メディア心理学	2	メディアとことば	2	34	
				コミュニケーション心理学B	2	メディア産業論	2	コミュニケーションと女性のキャリア	2		
				対人コミュニケーション(ジェンダー)	2	メディア史	2	キャリアと産業組織の心理学	2		
				文化心理学(グローバル社会)	2	ジャーナリズムと現代社会	2				
				多文化コミュニケーション	2	広告と消費者心理	2				
			メディア社会論	2	ジェンダーとメディア	2					
			メディア文化論	2	グローバルメディア	2					
基盤演習	1年次演習(コミュニケーション)	2	2年次演習(コミュニケーション)	2					10		
			コミュニケーション研究法入門	4							
			オーラルコミュニケーションスキルズ	2							
発展演習					3年次演習(コミュニケーション) I	2	4年次演習(コミュニケーション) I	2	16		
					3年次演習(コミュニケーション) II	2	4年次演習(コミュニケーション) II	2			
					社会調査法実習(質問紙調査)I	2	コミュニケーション研究法実習(内容分析)	2			
					社会調査法実習(質問紙調査)II	2					
					多変量解析	2					
実験・実習											
卒業論文							卒業論文	8	8		
単位数	38		38		32		22		130		

心理・コミュニケーション学科 コミュニケーション専攻 情報デザイン

「現代に生きる人間のあり方を考究・提言できる人材養成

情報デザインを中心に学び、世の中のモノゴトをユーザ中心に改革できる人材を目指す

科目区分		1年次		2年次		3年次		4年次		計	
		科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位		
全学共通カリキュラム	リベラル・スタディーズ	総合教養科目	代数と幾何の基礎	2	情報の数学	2	キャリアデザインを描く	2	女性学・ジェンダーを学ぶ	2	16
			こころの科学	2			総合教養演習(人間自身を知る)	2			
		ことばの世界	2								2
		情報と社会	2								
		女性のウェルネス・身体運動 I	1								
	女性のウェルネス・身体運動 II	1									
	挑戦する知性科目										0
	キリスト教学科目	キリスト教学 I (入門 I)	2	キリスト教学 II (キリスト教と女性)	2						6
		キリスト教学 I (入門 II)	2								
	アカデミック・スキル科目	外国語科目	Communication Skills A	1	Discussion Skills A	1	フランス語(読解)A	1			14
Communication Skills B			1	Discussion Skills B	1	Critical Reading and Discussion A	1				
Reading I A			1	Reading II A	1						
Reading I B			1	Reading II B	1						
フランス語初級			4								
情報処理科目	日本語科目	情報処理技法(リテラシ) I	2			情報処理技法(マルチメディアと表現) I	2			14	
		情報処理技法(リテラシ) II	2			情報処理技法(マルチメディアと表現) II	2				
		コンピュータ・サイエンス I	2			情報処理技法(Webでの情報表現)	2				
		コンピュータ・サイエンス II	2								
学科科目	入門	心理・コミュニケーション概論	2							12	
		心理学概論	2								
		コミュニケーション概論 I	2								
		コミュニケーション概論 II (多文化)	2								
		コミュニケーション概論 II (メディア)	2								
		コミュニケーション概論 II (情報デザイン)	2								
	基盤講義	先端トピック概論(コミュニケーション)B	2	コミュニケーション統計法1	2					8	
		基礎心理学概論	2	コミュニケーション統計法2	2						
	特殊講義	デザイン思考I	2	デザイン心理(視覚)	2	コミュニケーションと女性のキャリア	2	24			
		デザイン思考II	2	デザイン心理(聴覚)	2	ダイバーシティとコミュニケーション	2				
		ユニバーサルデザイン(人間中心設計)	2	メディア心理学	2						
		ICTリテラシーI	2								
		ICTリテラシーII	2								
		Webデザイン	2								
		インターネット・バイ・デザインI	2								
	基盤演習	1年次演習(コミュニケーション)	2	2年次演習(コミュニケーション)	2			14			
		アプリ作成入門	2	コミュニケーション研究法入門	4						
WebプログラミングI		2									
WebプログラミングII		2									
発展演習					3年次演習(コミュニケーション) I	2	4年次演習(コミュニケーション) I	2	12		
					3年次演習(コミュニケーション) II	2	4年次演習(コミュニケーション) II	2			
					コミュニケーション研究法実習(実験法)	2					
多変量解析	2										
実験・実習								0			
卒業論文							卒業論文	8	8		
単位数	44		36		30		20		130		

心理・コミュニケーション学科 コミュニケーション専攻

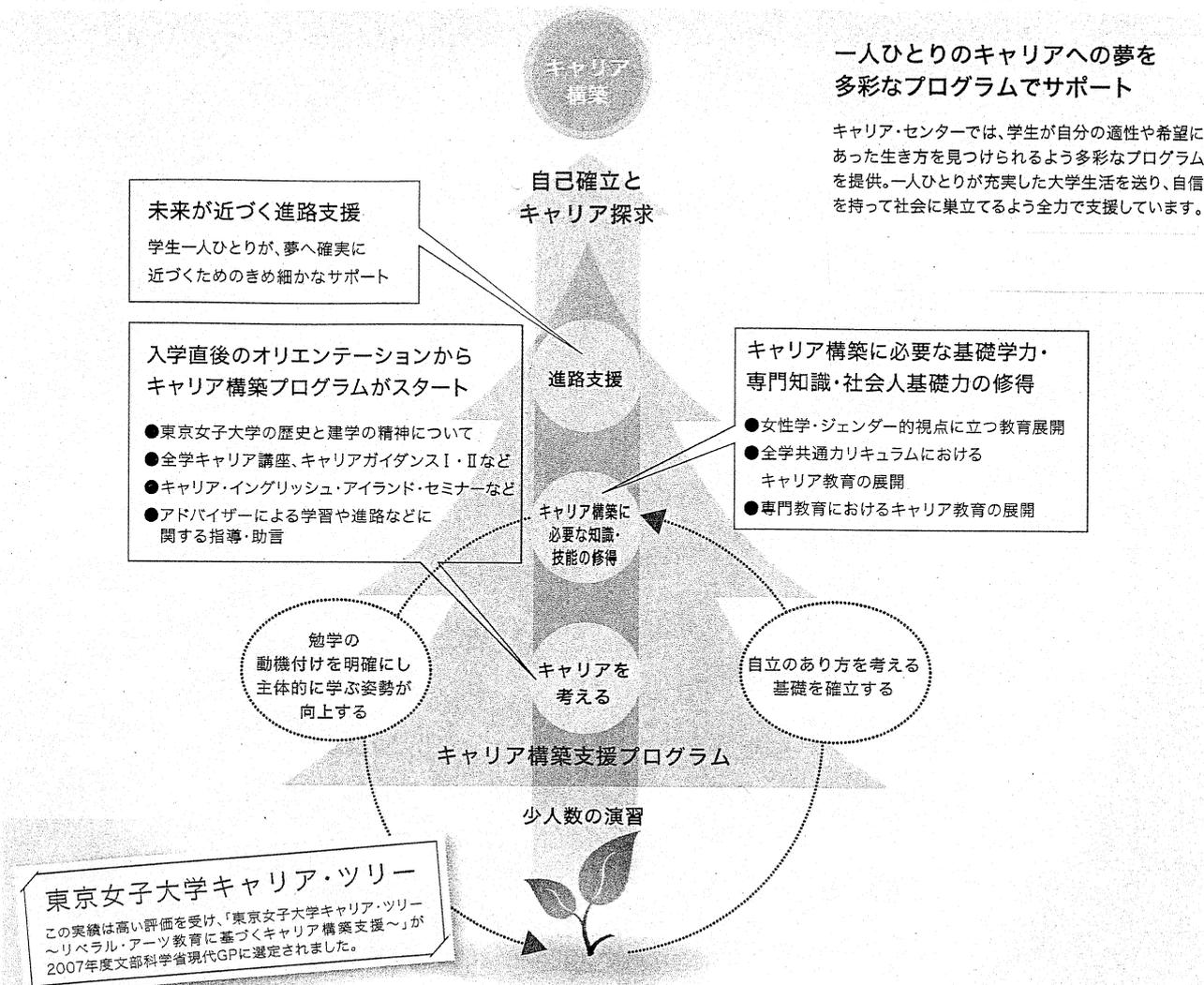
現代に生きる人間のあり方を考究・提言できる人材養成

多文化コミュニケーションと文化心理学を中心に学び、グローバルに活躍する日本語教師をめざす

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次		計			
	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位	科目名	単位				
全学共通カリキュラム	リベラル・スタディーズ	総合教養科目	現代の家族とジェンダー	2	こどものころ	2	こころの科学	2	国際社会と日本	2	18	
		情報と社会	2	脳の科学	2	情報の数学	2					
		ことばの世界	2	地域社会論	2							
		女性のウェルネス・身体運動Ⅰ	1									
		女性のウェルネス・身体運動Ⅱ	1									
	挑戦する知性科目		ケンブリッジ教養講座	2						2		
	キリスト教学科目	キリスト教学Ⅰ(入門Ⅰ)	2	キリスト教学Ⅱ(キリスト教と女性)	2						6	
		キリスト教学Ⅰ(入門Ⅱ)	2									
	外国語科目	Communication Skills A	1	Discussion Skills A	1	Listening and Presentation A	1					14
		Communication Skills B	1	Discussion Skills B	1	Critical Reading and Discussion A	1					
Reading I A		1	Reading II A	1								
Reading I B		1	Reading II B	1								
フランス語初級		4										
日本語科目	日本語表現法	2							2			
情報処理科目	情報処理技法(リテラシ)Ⅰ	2								4		
	情報処理技法(リテラシ)Ⅱ	2										
学科科目	入門	心理・コミュニケーション概論	2							12		
		心理学概論	2									
		コミュニケーション概論Ⅰ	2									
		コミュニケーション概論Ⅱ(多文化)	2									
		コミュニケーション概論Ⅱ(メディア)	2									
		コミュニケーション概論Ⅱ(情報デザイン)	2									
	基盤講義	先端トピック概論(コミュニケーション)A	2	コミュニケーション統計法1	2					6		
				コミュニケーション統計法2	2							
	特殊講義			文化心理学(グローバル社会)	2	メディアとことば	2	文化心理学(文化と自己)	2	30		
				デザイン心理(聴覚)	2	多文化教育	2					
			多文化コミュニケーション	2	言語コミュニケーション能力の発達	2						
			日本語教育研究概論Ⅰ	2	日本語教育研究Ⅰ	2						
			日本語教育研究概論Ⅱ	2	日本語教育研究Ⅱ	2						
			第二言語習得基礎論A	2	日本語学(表記・語彙)B	2						
			第二言語習得基礎論B	2	日本語学(文法・談話)B	2						
基盤演習	1年次演習(コミュニケーション)	2	2年次演習(コミュニケーション)	2					10			
			コミュニケーション研究法入門	4								
			オーラルコミュニケーションスキル	2								
発展演習					3年次演習(コミュニケーション)Ⅰ	2	4年次演習(コミュニケーション)Ⅰ	2	12			
					3年次演習(コミュニケーション)Ⅱ	2	4年次演習(コミュニケーション)Ⅱ	2				
					コミュニケーション研究法実習(内容分析)	2						
					多変量解析	2						
実験・実習							日本語教育実習	4	4			
卒業論文							卒業論文	8	8			
単位数	42		40		28		20		130			

教職員SD研修実施方針

1. 大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、全ての教職員に対し、必要な知識・技能を習得し、能力・資質を向上させるための研修の機会を設ける。
2. 研修には、学内で企画実施する研修の他、関連団体が実施する研修も含む。
3. 研修計画は、教職員のキャリアパスを考えて、計画的に策定する。
4. 学長等大学執行部を含む全ての教職員（教育職員、特別職員、事務職員）は、研修に積極的に参加する。
5. 教職協働強化の観点から、事務職員に対しても、教育研究に関する研修への参加を推進する。



リベラル・アーツ教育

時代を見据え、幅広い視野に立ち、的確な判断力を備え、
先入観にとらわれない自由な発想と柔軟にして強靱な創造力の育成。



ガイダンス風景



ワークショップ風景

正課教育におけるキャリア教育

- 女性学研究所企画「女性学・ジェンダー的視点に立つ科目」を開講し、女性のキャリア構築を図る。
- 少人数の演習により、学生自身が主体的、能動的に「教養形成」を図り、自己の価値観、考え方を養う。また、異なる価値観、考え方を知ることにより、発想の多様性、相対性を認識できるようになることを目指す。
- 専門的な知識と技能の修得、問題を認識・分析・解決する能力と、論理的思考を体得し、広い視野で自らキャリアを開拓できる力を養う。卒業論文、Final Presentation、卒業講究を必修とし、大学教育の集大成と位置付けている。

正課外教育におけるキャリア構築支援

- 全学キャリア講座の開催。
- キャリア・センターによる各種キャリア構築支援プログラムの実施。
- 東京女子大学学会の「学生研究奨励費」制度を活用した学生共同研究の推進。
- キャリア・イングリッシュ・アイランド、エンパワーメント・センターとの共催セミナーなどの実施。



キャリア・カウンセラーとの相談風景